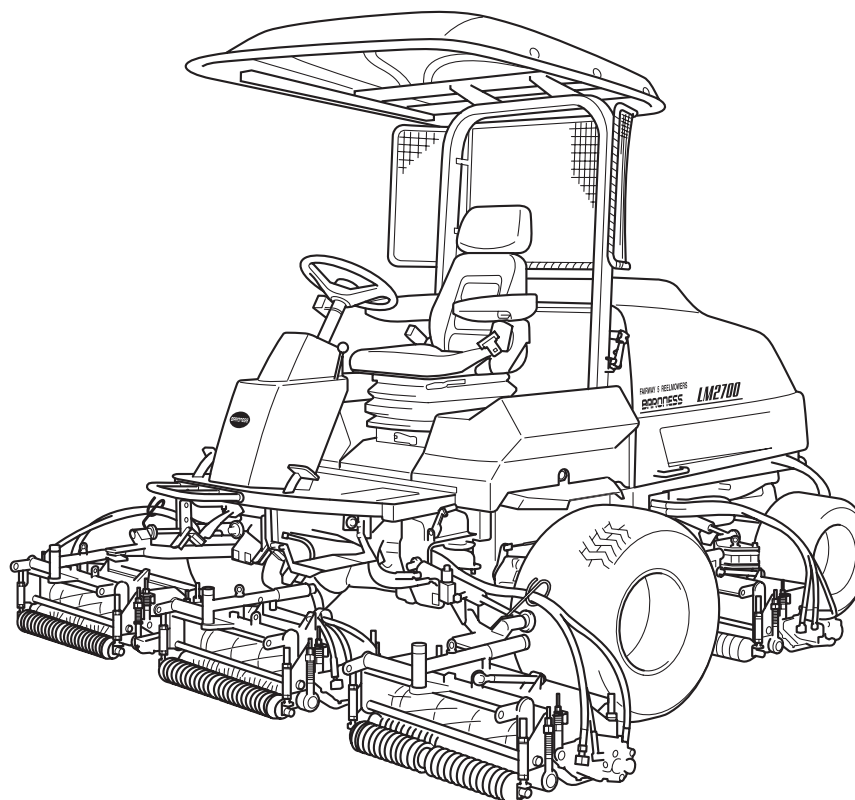


# LM2700

フロント5連リールモア

取扱説明書



“必読” 機械のご使用前に必ず本書およびエンジンの取扱説明書をお読みください。

















**BARONESS**<sup>®</sup>  
Quality on Demand

Serial No.10372~

Ver.2.2

# 目次

▲注意 ごあいさつ .....	1	1- 5 エアクリーナの清掃 .....	17
はじめに .....	1	1- 6 エンジン周りの点検 .....	18
安全について .....	1	1- 7 タイヤの点検 .....	18
機械の使用にあたって .....	1	1- 8 ブレーキの点検 .....	18
安全管理 .....	1	1- 9 燃料の補給と取扱上の注意 .....	18
1. トレーニング .....	2	1- 10 バッテリーの点検 ▲危険 .....	19
2. ▲警告 運転の前に .....	2	2. 各部の締付 .....	19
3. 運転操作 .....	3	3. 各部の操作方法 .....	20
4. 保守と保管 .....	4	3- 1 ▲注意 機械操作について .....	20
バロネス芝刈機を安全に使用するために .....	5	3- 2 ▲警告 エンジンを始動する前に .....	20
安全に関する警告について .....	5	3- 3 エンジン始動・停止 ▲注意 .....	21
安全な作業をするために必ずお守りください .....	5	3- 4 安全装置について .....	21
1. ▲警告 一般的な注意事項 .....	5	3- 5 ▲注意 機械を離れるときの注意 ▲注意 .....	21
2. ▲警告 ▲注意 運転する前に .....	6	3- 6 ブレーキペダル .....	22
3. ▲危険 ▲警告 ▲注意 作業前後の点検や整備をするとき .....	6	3- 7 駐車ブレーキ ▲注意 .....	22
4. ▲警告 運搬するとき .....	8	3- 8 前・後進ペダル ▲警告 .....	22
5. ▲警告 ▲注意 移動や圃場へ出し入れするとき .....	8	3- 9 ペダルストッパ ▲注意 .....	22
6. ▲警告 作業をするとき .....	9	3-10 シートの調整 .....	22
7. ▲危険 ▲警告 ▲注意 作業終了後や格納するとき .....	10	3-11 チルトステアリング ▲注意 .....	23
各部の名称 .....	12	3-12 操作パネルのスイッチ、レバー .....	23
警告表示ラベル・指示ラベル貼付位置 .....	13	3-13 移動・作業切換スイッチ .....	23
警告表示ラベル・指示ラベルの説明 .....	14	3-14 2WD・4WD 切換スイッチ ▲注意 .....	24
LM2700 の特長 .....	15	3-15 リール回転スイッチ ▲注意 .....	24
仕様 .....	15	3-16 リール正転・逆転スイッチ ▲注意 .....	24
取扱説明 .....	16	3-17 スロットルレバー .....	24
1. 使用前の点検 ▲注意 .....	16	3-18 モアユニット昇降レバー ▲注意 .....	25
1- 1 ラジエータとオイルクーラの清掃 ▲注意 .....	16	3-19 デフロックスイッチ ▲注意 .....	25
1- 2 ラジエータ・冷却水量の点検 ▲注意 .....	16	3-20 バイパス弁 .....	25
1- 3 エンジンオイルの点検・補給 .....	17	3-21 リール回転調整バルブ .....	25
1- 4 油圧作動油の点検 .....	17	3-22 モアロックレバー .....	26

3-23 グルーマクラッチレバー（オプション）	26	10. 各部の調整	37
4. 各部の計器	26	10- 1 ピストンポンプの中立位置の調整	37
4- 1 操作パネルの計器類	26	10- 2 自走できなくなった場合のけん引 	37
4- 2 タコメータ、アワーメータ	26	11. 長期保管について	38
4- 3 水温計	26	12. 廃棄について	38
4- 4 燃料計 	27		
4- 5 チャージランプ	27		
4- 6 サーモスタートランプ	27		
4- 7 オイルプレッシャーランプ（エンジン油圧ランプ）	27		
5. 刈込み作業 	28		
6. 運搬	28		
7. メンテナンス・本体	28		
7- 1 エンジンオイルの交換 	28		
7- 2 油圧作動油の交換	29		
7- 3 各部油漏れの点検	29		
7- 4 各部のグリースアップ	29		
7- 5 ヒューズの交換	30		
7- 6 ボンネットの開閉 	31		
7- 7 シート下カバーの開閉 	31		
7- 8 ブレーキの調整 	31		
7- 9 燃料の空気抜き	31		
8. メンテナンス・モア	32		
8- 1 グリースアップ	32		
8- 2 刈高調整	32		
8- 3 刃の調整  	33		
8- 4 ラッピング研磨  	34		
8- 5 グルーマの調整（オプション） 	34		
8- 6 リールカバーの調整	35		
8- 7 # 2、# 3 モアユニットの旋回  	35		
9. メンテナンスの注意	36		
9- 1  メンテナンス上の注意	36		
9- 2  高圧オイルによる被害の防止	36		
9- 3 メンテナンススケジュール	36		

## ごあいさつ

このたびは、バロネス芝刈機・フロント5連リールモア LM2700 を、お買い上げいただきましてまことにありがとうございます。

この取扱説明書は、ゴルフ場の芝刈をする人向けに対して、正しい取扱方法と調整方法、また点検方法について説明しています。機械をご使用になる前に必ず本書をお読みいただき、内容を十分にご理解の上、ご使用ください。

なお、工場出荷時には十分な試運転、検査を重ねた上で出荷をしておりますが、機械が本来の性能を発揮するためには、取扱方法や作業前後の点検・調整・給油等の日常の管理が大きく影響します。いつまでも優れた性能を発揮させ、安全な作業をしていただきますようお願いいたします。

### ご 注 意

- 本機は型式が順次変わっている場合があります。  
本機に関するお問合せの際は、必ず型式・製造番号を合せてご通知くださいますようお願いいたします。
- なお、本書記載事項は、予告無しに変更する場合があります。

#### **注意** … 運転について

- ・ この説明書に記載されているマークおよび機械に貼られている警告表示ラベルは、安全確保のための説明が書かれています。操作手順や安全注意事項を注意してお読みいただき、十分ご理解の上、この機械を運転してください。
- ・ マークや説明文はきれいに保ち、無くなったり損傷があった場合には、すぐに新しいものと交換してください。
- ・ なお、本機に貼られているラベルは絶対にはがさないでください。

## はじめに

この説明書をお読みいただき製品の運転方法や整備方法を十分にご理解の上、他人に迷惑の掛からない、適切な方法でご使用ください。この製品を適切かつ安全にご使用いただくことはお客様ご自身の責任です。この説明書にないメンテナンス、整備などは決してしないでください。もし行う場合は専門知識のある要員で、かつ別資料サービスマニュアルを十分理解した要員によって作業をしてください。

整備について、また純正部品についてなど、分からないことはお気軽に弊社代理店におたずねください。お問合せの際には、必ず製品の型式と機番をお知らせください。

## 安全について

この製品は、製造時の状態において GEN 規格 EN836:1997（但し所定のラベルの貼付が条件）、による乗用芝刈機の安全基準を満たす製品です。

誤使用や整備不良は負傷や死亡事故につながります。事故を防止するために、以下に示す安全のための注意事項を必ずお守りください。特に危険警告記号のついた事項にご注意ください。危険警告記号は、「注意」「警告」または「危険」の文字と共に表示され、いずれも安全作業のための重要事項を示します。これらを遵守されないと人身事故につながる恐れがありますので、十分にご注意ください。

## 機械の使用にあたって

芝刈り以外の目的では使用しないでください。その他の目的での使用すると大変危険であり、機械を損傷する原因にもなります。


## 安全管理

以下の注意事項は、GEN 規格 EN836:1997、国際規格 ISO5395:1990 および ANSI 規格 B71.4-2004 より指示されているものを含んでいます。

## 1. トレーニング

- 取扱説明書や関連する機器の説明書をよくお読みください。各部の操作方法や警告ラベル、本機の正しい使用方法に十分慣れておきましょう。
- オペレータが日本語を読めない場合には、オーナーの責任において、この取扱説明書の内容を十分に説明してください。
- すべてのオペレータ、整備士に適切なトレーニングを行ってください。トレーニングはオーナーの責任です。特に以下の点についての十分な指導が必要です。
  - ・ 乗用機械を取扱う時は、注意と集中が必要である。
  - ・ 斜面で機体が滑り始めるとブレーキで制御することは非常に難しくなる。  
斜面で制御不能となるおもな原因は：
    - ◇タイヤのグリップ不足
    - ◇速度の出しすぎ
    - ◇不適切なブレーキ操作
    - ◇不適當な機種選定
    - ◇地表条件、特に傾斜角度を正しく把握していなかった。
    - ◇不適當な連結と重量配分。
- 子供（18才未満）や正しい運転知識のない方には機械を操作させないでください。地域によっては機械のオペレータに年齢制限を設けていることがありますのでご注意ください。
- オーナーやオペレータは自分自身や他の安全に責任があり、オーナーやオペレータの注意によって事故を防止することができます。
- 人身事故や器物損壊などについてはオーナー、オペレータ、整備士が責任を負うものであることを忘れないでください。

## 2. 運転の前に

- 作業場所を良く観察し、安全かつ適切に作業するにはどのようなアクセサリやアタッチメントが必要かを判断してください。メーカーが認めた以外のアクセサリやアタッチメントを使用しないでください。
- 作業には安全靴と長ズボン、ヘルメット、保護メガネ、および聴覚保護具（イヤーマフ）を着用してください。長い髪、だぶついた衣服、装飾品などは可動部に巻込まれる危険があります。また、裸足やサンダルで機械を運転しないでください。
- 機械が使われる区域を点検し、小石、玩具、および針金のような機械がはね飛ばす可能性のあるすべての物体を取除くこと。
-  **警告** 燃料は引火性が高いので、以下の注意を必ず守ってください：
  - 燃燃料は専用の容器に保管する。
  - 給油はエンジンを始動する前に行う。エンジンの運転中やエンジンが熱い時に燃料タンクのフタを開けたり給油したりしない。
  - 燃料補給は必ず屋外で行い、給油中は喫煙しないこと。
  - 燃料がこぼれたらエンジンを始動せずに、機械を別の場所に動かし、気化した燃料ガスが十分に拡散するまで引火の原因となるものを近づけない。
  - 燃料タンクや燃料容器のフタは確実にしめる。
- 運転操作装置（ハンドル、ペダル、レバー等）、安全装置、防護カバーが正しく取付けられ、正しく機能しているか点検してください。これらが正しく機能しない時には作業を行わないでください。
- ブレーキの効きが悪かったり、ハンドルに著しいガタがある場合は、必ず調整、修理してから使用してください。
- マフラが破損したら必ず交換してください。

## 3. 運転操作

- 有毒な一酸化炭素ガスが溜まる可能性のある閉切った場所では、エンジンを作動しないこと。
- 十分に明るい場所でのみ運転し、穴や隠れた危険を避けること。
- エンジンを始動する前に、作業部への駆動をすべて遮断し、走行シフトをニュートラルにして、駐車ブレーキを掛けてください。  
運転席に座ってエンジンをかけてください。(シートベルトがある場合は着用してください。)
- 「安全な斜面」はありません。芝生の斜面での作業には特に注意が必要です。  
転倒を防ぐために：
  - 斜面では急停止、急発進しない。
  - 走行クラッチがある機械はクラッチをゆっくりつなぐこと。また坂を下る場合は、走行ギアを入れた状態にしておく。
  - 斜面での走行や旋回は低速で行う。
  - 凸凹や穴、隠れた障害物がないか常に注意する。
  - 斜面を横切りながらの作業は、そのために設計された機械以外では行わない。
  - 決められた角度以上の傾斜地または転倒やスリップの危険がある場所では、絶対に作業を行わない。
- ガードが破損したり、正しく取付けられていない状態のまま運転しないでください。インタロック装置は絶対に取外さないでください。また、正しく調整してお使いください。
- エンジンのガバナの設定を変えたり、エンジンの回転数を上げすぎたりしないでください。エンジンを規定以上の速度で運転すると、人身事故を起こす危険が増大します。
- 運転位置を離れる場合は次のことを厳守してください；
  - 平坦な場所に停止する。
  - 作業部の動力を遮断し、作業部を下げる。
  - 走行シフトをニュートラルにして、駐車ブレーキを掛ける。
  - エンジンを止め、キーを抜取る。
- 以下のような状況になった場合には、アタッチメントの駆動を停止し、エンジンを止め、キーを抜取ってください：
  - 燃料を補給するとき。

- グラスキャッチャを取外すとき。
- 刈り高を調整するとき。ただし運転位置から遠隔操作で行える場合は除きます。
- 詰まりを取除くとき。
- 機械の点検・清掃・整備作業を行うとき。
- 機械に異物がぶつかったり、異常な振動を感じたとき。  
機械を再始動する前に機械の損傷を点検・修理してください。
- 作業部や回転部に手足を近づけないでください。
- バックするときには、下方と後方の安全に十分な注意を払ってください。
- オペレータ以外の人を乗せないでください。
- 周囲に人がいるとき、特に子供やペットがいるときには絶対に作業を行わないでください。
- 旋回するときや、管理道路やカート道、歩道を横切るときなどは減速し、周囲に注意してください。
- 草地以外の場所では、刃の回転を停止してください。
- 移動走行中や作業を休んでいるときは作業部の駆動を止めてください。
- 作業部を使用するときは、排出方向に気を付け、人に向けないようにしてください。また作業中は機械に人を近づけないでください。
- アルコールや薬物を摂取した状態で運転しないでください。
- 本機をトラックやトレーラに積載する場合は、十分注意してください。  
積込み、積下ろしは平らな安全な場所で、トラックやトレーラの駐車ブレーキを掛け、エンジンを止め、輪止めをして行ってください。
- トラックやトレーラに積載して移動する時は、本機の駐車ブレーキを掛け、エンジンを止め、強度が十分あるロープ等で機械を固定してください。
- あゆみ板を使用する場合は、幅、長さ、強度が十分あり、スリップしないものを選んでください。
- 本機を輸送する場合は、燃料コックは閉じてください。
- 見通しの悪い曲がり角や、茂み、立木などの障害物の近くでは安全に注意してください。
- わき見運転、手放し運転はしないでください。
- エンジン停止中はスロットルを下げてください。また、燃料コックが付いている機械は燃料コックを閉じてください。



## 4. 保守と保管

- 修理・調整・清掃作業の前には、平らな場所で機械を停止し、作業機を降ろし、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止し、キーを抜取ってください。また、機械のすべての動きが完全に停止したことを確認し作業を行ってください。
- 機体から離れる時には必ずモアユニットを降下させておいてください。ただし、モアユニットを上昇位置に確実にロックしておくことができる場合はこの限りではありません。
- 火災防止のため、エンジンやマフラ、バッテリー、燃料タンクの周囲、作業部の周囲、および駆動部に、余分なグリース、草や木の葉、ホコリなどが溜まらないようご注意ください。オイルや燃料がこぼれた場合は拭取ってください。
- 閉切った場所に本機を保管する場合は、エンジンが十分冷えていることを確認してください。
- 本機にシートを掛けて保管する場合は、過熱部分が十分冷めていることを確認してから行ってください。
- 炎や火花がある屋内では、タンクに燃料が入った状態で保管しないでください。
- 機械の保管・搬送時には、燃料コックが付いている機械は、燃料コックを閉じてください。
- 炎の近くに燃料を保管しないでください。
- 絶対に訓練を受けていない人に機械を整備させない。
- 点検・整備は、マフラやエンジンが冷めてから行ってください。
- 調整、整備等に必要な工具類は適切な管理をし、目的に合った工具を正しく使用してください。
- 機械をジャッキアップする場合は、ジャッキスタンドなどを使用し、確実に支えてください。
- 部品を取外すときなど、スプリングや油圧などの圧力が一気に解放される場合がありますので、注意してください。
- 油圧機器を取外す等、油圧系統の整備をする場合は、必ず減圧してから行ってください。
- 油圧系統のラインコネクタは十分に締まっているかを確認してください。油圧をかける前に油圧ラインの接続やホースの状態を確認してください。
- 油圧回路のピンホール漏出やノズルの油漏れを確認する場合は、絶対に手ではなく、紙や段ボール等を使用して漏出箇所を探してください。高圧オイルは、皮膚を突破することがあり、人的事故をおこす恐れがありますので、十分注意してください。

- 万一、油圧オイルが体内に入った場合には、この種の労働災害に経験のある施設で数時間以内に外科手術を受けないと壊疽を起こします。
- 修理作業の前にはバッテリーケーブルを取外してください。先にマイナスケーブルを取外してからプラスケーブルを取外してください。取付ける場合は、プラスから取付けてください。
- 配線等が接触したり、被覆のはがれがないように注意してください。
- リールカッタとベッドナイフの点検を行うときには安全に十分注意してください。必ず手袋を着用してください。
- 刃合せ調整中は、リールカッタとベッドナイフの間に指が挟まれないように十分注意してください。
- 複数のリールカッタを持つ機械では、1つのリールを回転させると他も回転する場合がありますので注意してください。
- 可動部に手足を近づけないでください。エンジンが作動したままで調整作業をしないでください。
- バッテリーの充電は、火花や火気のない換気の良い場所で行ってください。バッテリーと充電器の接続や切離しを行うときは、充電器をコンセントから抜いておいてください。また、安全な服装を心がけ、工具は確実に絶縁されたものを使ってください。
- すべての部品が良好な状態にあるか点検を怠らないでください。消耗したり破損した部品やステッカーは安全のため早期に交換してください。
- 常に機械全体の安全を心掛け、また、ボルト、ナット、ネジ類が十分に締まっているかを確認してください。
- グラスキャッチャの摩耗や劣化を、こまめに点検してください。
- 燃料タンクの清掃などが必要になった場合は屋外で作業を行ってください。

# バロネス芝刈機を安全に使用するために

以下の注意事項は「バロネス芝刈機」を安全に使用していただくために必ずお守りいただきたい事項です。

## 安全に関する警告について

本機には、正しく安全な操作を行っていただくために▲印をつけた警告表示ラベルを貼付しています。

警告表示ラベルは安全上、特に重要な項目を示していますので、警告を必ず守り、安全な操作を行ってください。

### 警告表示について

- ▲ 危険** ... その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しています。
- ▲ 警告** ... その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示しています。
- ▲ 注意** ... その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのある、または物的損傷の発生が予測されるものを示しています。

	...	取扱説明書参照		...	警告マーク (安全のための衣服)		...	注意マーク (高温部)
	...	危険マーク (火気厳禁)		...	警告マーク (高圧オイル)		...	注意マーク (巻き込み注意)
	...	危険マーク (飛散物)		...	警告マーク (転倒、転落)		...	注意マーク (はさまれ注意)
	...	危険マーク (手足の切断)		...	警告マーク (排気ガスに注意)		...	注意マーク (はさまれ注意)
	...	危険マーク (指の切断)		...	注意マーク (手を切る)		...	注意マーク (Vベルト等回転物)
				...	燃料マーク (2号軽油)		...	グリース

# 安全な作業をするために必ずお守りください

- ここに記載されている注意事項は、安全に関する重大な内容です。必ず守ってください。
- 記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む傷害や事故、機械の破損をする恐れがあります。
- ※ ご購入された製品によっては、該当しない内容も一部記載していますのでご了承ください。

## 1. 一般的な注意事項



### ■ こんなときは、運転しない！

- 過労、病気、薬の影響、その他の理由により、作業に集中できないとき。
- 酒を飲んだとき。
- 妊娠しているとき。
- 子供（18才未満）や訓練を受けていない人。

※ 守らないと、思わぬ事故をおこす恐れがあります。

### ■ 作業に適した服装をする

はちまき、首巻き、腰タオルは禁止です。保護メガネ・ヘルメット・滑り止めのついた靴を着用し、作業に適した保護具などを着け、だぶつきのない服装をしてください。



※ 守らないと、機械に巻き込まれたり、滑って転倒する恐れがあります。

### ■ 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

※ 守らないと、死亡事故や重大な傷害、機械の破損をおこす恐れがあります。



## 2. 運転する前に

### 警告

#### ■ 運転者以外に人を乗せない

この機械の乗車定員は1名です。運転者以外に人を乗せないでください。

※ 守らないと、思わぬ事故をおこす恐れがあります。

#### ■ エンジン始動時には必ず運転席に座り、周囲の安全を確認する

エンジン始動時には必ず運転席に座り、シートの位置と周囲の安全を確認してください。

※ 守らないと、思わぬ事故をおこす恐れがあります。

#### ■ 夜間走行・作業の禁止

本機は照明装置を備えていませんので、夜間や視界の悪いときは走行、作業を行わないでください。

※ 守らないと、思わぬ事故をおこす恐れがあります。

#### ■ 寒冷時は暖機運転を実施する

寒冷時は暖機運転を必ず行ってください。

※ 守らないと、機械の性能が十分に発揮できません。

### 注意

#### ■ マフラの高温に注意

運転中およびエンジン停止直後のマフラは高温ですので、触れないでください。

※ 守らないと、火傷する恐れがあります。

#### ■ 機械の改造禁止

改造をしないでください。

※ 守らないと、事故・ケガ・機械の故障をおこす恐れがあります。

#### ■ 点検・整備を行う

機械を使う前と後には必ず点検・整備を行ってください。

※ 守らないと、事故・ケガ・機械の故障をおこす恐れがあります。

#### ■ 定期点検整備を行う

1年毎に定期点検整備を行い、各部の保守をしてください。特にステアリング用油圧ホースは、2年毎に交換し、電気配線は毎年点検してください。

※ 守らないと、整備不良による事故や機械の故障をおこす恐れがあります。

### 注意

#### ■ リールモアの注意

● 作業やメンテナンス中、回転部は危険ですので、回転部分に手足やものを入れたり、触れたりしないでください。

● 石等の障害物は、リールカッター、ベッドナイフの損傷、飛散物による事故等の原因になりますので取除いてから使用してください。万一、障害物がかみ込んだ場合は、エンジンを停止し、駆動部が完全に停止してから取除いてください。そして、機械の損傷を確認し、壊れている場合は直ちに修理してください。

● 防護カバー、ベルトカバーは、使用者の危険を防止するものです。破損の場合は交換し、所定の位置に必ず付けてください。

## 3. 作業前後の点検や整備をするとき

### 危険

#### ■ 注油・給油はエンジンが冷めてから行う

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油を行わないでください。

※ 守らないと、燃料などに引火して火災をおこす恐れがあります。

#### ■ 燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえ煙草や裸火照明は絶対にしないでください。

※ 守らないと、燃料に引火して火災をおこす恐れがあります。

## ■ 燃料漏れに注意

燃料パイプが破損していると、燃料漏れをおこしますので必ず点検してください。

※ 守らないと、燃料に引火して火災をおこす恐れがあります。

## ■ 燃料キャップをしめ、こぼれた燃料は拭取る

燃料を補給したときは燃料キャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいに拭取ってください。

※ 守らないと、火災事故をおこす恐れがあります。

## ■ バッテリ点検時は火気厳禁

バッテリーの点検・充電時は火気厳禁です。

※ 守らないと、バッテリーに引火・爆発して火傷などをする恐れがあります。

## ■ バッテリ液は身体につけないようにする

バッテリー液を身体や服につけないようにしてください。万一付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

※ 守らないと、火傷をしたり、服が破れる恐れがあります。

## ■ バッテリの取付け、取外しは正しい手順で行う

バッテリーを取付けるときはプラス（＋）側を先に取付け、取外すときはマイナス（－）側から取外します。

※ 守らないと、ショートして火傷や火災事故をおこす恐れがあります。



## ■ バッテリ液を「下限（LOWER）」以下にしない

バッテリー液は「上限」と「下限」の間にあることを確認し、「下限」以下にしないでください。

※ 守らないと、「下限」以下になったときに容器内の極板接続部がバッテリー液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂する恐れがあります。

## ■ 高圧オイルに注意

油圧の継手やホースに緩みや損傷がないかを常に確認し、継手やホースを外す前には、油圧回路内の圧力をなくしてください。

※ 守らないと、高圧オイルは皮膚を突き破ることがあり、傷害事故をおこす恐れがあります。



## ■ 電気部品・コードを必ず点検

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部の緩みがないかを毎日作業前に点検してください。

※ 守らないと、ショートして、火災事故をおこす恐れがあります。

## ■ タイヤには、規定の最大空気圧以上に空気を入れない

タイヤに空気を入れる際には、規定の最大空気圧以上に空気を入れないでください。

※ 守らないと、タイヤが破裂し、傷害事故をおこす恐れがあります。

## ■ 排気ガスには十分注意する

閉め切った屋内などではエンジンを始動しないでください。エンジンは風通しの良い屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。

※ 守らないと、排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故にいたる恐れがあります。

## ■ ブレーキ・ハンドルの点検を必ず行う

ブレーキの効きが悪かったり片効きがないように、またハンドルに著しいガタや遊びがないように、点検してください。

※ 守らないと、事故をおこす恐れがあります。

## ■ マフラ・エンジン周りのゴミは取除く

マフラやエンジン周辺部、ブレーキ等に草・ゴミ・燃料などが付着していないか、毎日作業前に点検してください。

※ 守らないと、火災事故をおこす恐れがあります。

## ■ 点検整備中はエンジン停止

点検・整備・修理または、掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

※ 守らないと、機械の下敷きになるなど、人的事故をおこす恐れがあります。

## ■ 点検整備は過熱部分が十分冷めてから行う

マフラやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから、点検整備を行ってください。

※ 守らないと、火傷をする恐れがあります。

## ■ 点検整備は平坦で安定した場所で行う

点検整備は交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で車輪止めをして行ってください。

※ 守らないと、機械が横転するなど、思わぬ事故をおこす恐れがあります。

## ■ カバー類は必ず取付ける

点検・整備などで取外したカバー類は、必ず取付けてください。

※ 守らないと、機械に巻込まれて、人的事故をおこす恐れがあります。

## ■ 目的に合った工具を正しく使用する

点検整備に必要な工具類は、適正な管理をし、目的に合った工具を正しく使用してください。

※ 守らないと、整備不良で事故をおこす恐れがあります。

## 4. 運搬するとき



警告



### ■ あゆみ板の上では、惰性運転はしない

坂道やあゆみ板の上での走行は、十分注意して行ってください。

※ 守らないと、転落などの事故をおこす恐れがあります。

### ■ 強度・長さ・幅の十分あるあゆみ板を使用する

積込み、積降ろしをするときは、平坦で交通の安全な場所で、トラックのエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキを掛け、車止めをしてください。使用するあゆみ板は、幅・長さ・強度が十分あり、スリップしないものを選んでください。

※ 守らないと、転落などの事故をおこす恐れがあります。

### ■ 登るときは前進、降りるときは後進で行う

トラックに積込むときは前進で、降りるときは後進で行ってください。

※ 守らないと、バランスを崩し、転落などの事故をおこす恐れがあります。

### ■ ロープでトラックに確実に固定する

トラックに乗せて移動するときは、駐車ブレーキを掛け、強度の十分あるロープ等でトラックに機械を固定してください。

※ 守らないと、荷台から機械が転落したりして、事故をおこす恐れがあります。

## 5. 移動や圃場へ出し入れするとき



警告



### ■ 一般道路走行禁止

本機は、特殊自動車の型式認定を取得していませんので、一般道路は走行出来ません。

※ 守らないと、道路交通法違反により罰せられます。

### ■ 周囲の安全を確認して、ゆっくりと発進する

周囲の安全を確認してからエンジンを始動し、急発進しないようにゆっくり発進してください。

※ 守らないと、人的事故をおこす恐れがあります。

### ■ 移動時は路肩に注意

溝のある道路や両側が傾斜している道路では、路肩に十分注意してください。

※ 守らないと、転落事故をおこす恐れがあります。

### ■ 急な発進・停止・旋回やスピードの出し過ぎ禁止

発進・停止はゆっくりと行ってください。旋回するときは、十分スピードを落としてください。また傾斜地、凸凹道やカーブの多い場所では、十分スピードを落としてください。

※ 守らないと、転倒・転落事故や、機械の破損をおこす恐れがあります。

### ■ 溝を渡るときはあゆみ板を使用する

圃場に入るとき、溝を渡るとき、軟弱な場所を通るときは、必ずあゆみ板を使用してください。あゆみ板は、幅・長さ・強度が十分あり、スリップしないものを使用してください。

※ 守らないと、スリップや転倒による事故をおこす恐れがあります。



注意



### ■ 暖機運転中は駐車ブレーキを掛ける

※ 守らないと、機械が自然に動きだし、事故をおこす恐れがあります。

### ■ 高速走行時、急激なブレーキ、ハンドル操作はしない

※ 守らないと、転倒・転落事故をおこす恐れがあります。





## 7. 作業終了後や格納するとき



### ■ 注油・給油はエンジンが冷めてから行う

エンジン回転中やエンジンが熱い間は、絶対に注油・給油を行わないでください。

※ 守らないと、燃料などに引火して、火災をおこす恐れがあります。

### ■ ラジエータが熱いときはキャップを開けない

ラジエータが過熱しているときには、絶対にラジエータキャップを開けないでください。

※ 守らないと、熱湯が吹出し、火傷する恐れがあります。

### ■ シートは機械が十分冷めてから掛ける

機械にシートを掛ける場合は、マフラやエンジンが十分冷めてから掛けてください。

※ 守らないと、火災事故をおこす恐れがあります。

### ■ バッテリーの取付け、取外しは正しい手順で行う

バッテリーを取付けるときはプラス（+）側を先に取付け、取外すときはマイナス（-）側から取外します。

※ 守らないと、ショートして火傷や火災をおこす恐れがあります。



### ■ 点検整備は平坦で安定した場所で行う

点検整備は交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、車輪止めをして行ってください。

※ 守らないと、機械が転倒するなど、思わぬ事故をおこす恐れがあります。

### ■ マフラ・エンジン周りのゴミは取除く

マフラやエンジン周辺部、ブレーキ等に、草・ゴミ・燃料などが付着していないか、毎日作業後に点検してください。

※ 守らないと、燃料などに引火して火災をおこす恐れがあります。

### ■ 電気部品・コードを必ず点検する

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部の緩みがないかを毎日作業後に点検してください。

※ 守らないと、ショートして火災をおこす恐れがあります。

### ■ 長期保管時はバッテリーとキーを外す

長期間使用しないで格納する場合は、バッテリーを取外し、キーを抜取り保管してください。

※ 守らないと、事故をおこす恐れがあります。

### ■ 高圧オイルに注意

油圧の継手やホースに緩みや損傷がないかを常に確認し、継手やホースを外す前には、油圧回路内の圧力をなくしてください。

※ 守らないと、高圧オイルは皮膚を突き破ることがあり、傷害事故をおこす恐れがあります。



### ■ 点検整備中はエンジン停止

点検・整備・修理または、掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

※ 守らないと、機械の下敷きになるなど、人的事故をおこす恐れがあります。

### ■ カバー類は必ず取付ける

点検・整備などで取外したカバー類は、必ず取付けてください。

※ 守らないと、機械に巻込まれて、人的事故をおこす恐れがあります。

### ■ 点検整備は過熱部分が十分冷めてから行う

点検整備はマフラやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから行ってください。

※ 守らないと、火傷をする恐れがあります。

● 定期的に BARONESS 正規代理店でエンジンの回転速度検査を受け、安全性と精度を確認しておきましょう。

● 大がかりな修理が必要になったとき、補助が必要なときは BARONESS 正規代理店にご相談ください。

● 常に安全に、最高の性能でお使いいただくため、交換部品やアクセサリは BARONESS 純正品をお求めください。他社の部品やアクセサリをご使用になると BARONESS 社の製品保証を受けられなくなる場合がありますので、ご注意ください。

● 無断で改善した場合は、使用しないこと。



## ■ 音圧レベル

この機械は、GEN 規格 EN836:1997 に定める手順に則て同型機で測定した結果、オペレータの耳の位置での連続聴感補正音圧レベルが 88dB 相当であることが確認されています。

## ■ 音響レベル

この機械は、EC 指令 2000/14/EC に定める手順に則って同型機で測定した結果、音響レベルが 103dB であることが確認されています。

## ■ 振動レベル

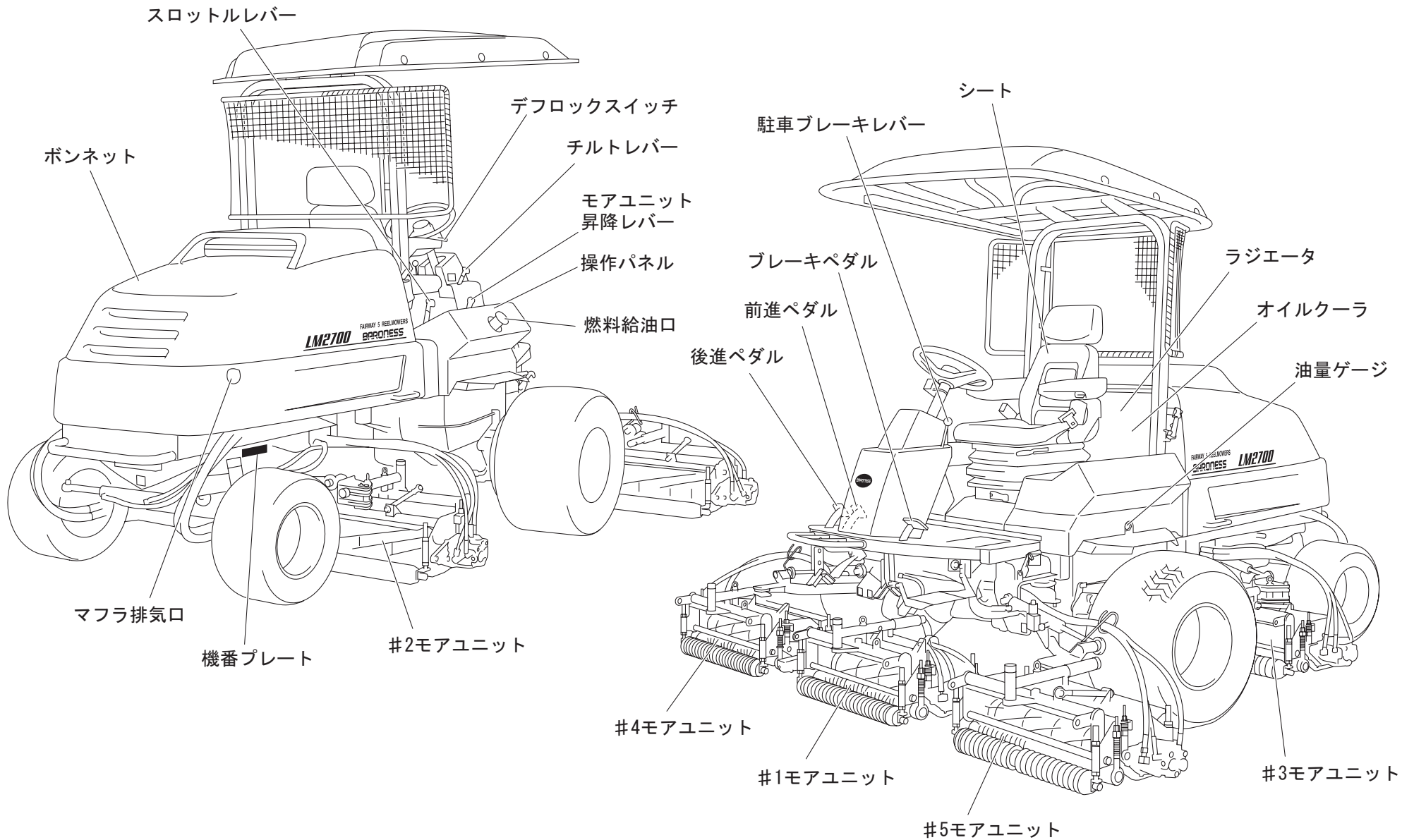
### 手腕系

この機械は、ISO5349-1:2001, 5349-2:2001 の規定に則って同型機で測定した結果、手・腕系の最大振動レベルが  $2.5\text{m/s}^2$  以下であることが確認されています。

### 全身

この機械は、ISO2631-1:1997, 2631-2:2003 の規定に則って同型機で測定した結果、全身の最大振動レベルが  $0.52\text{m/s}^2$  であることが確認されています。

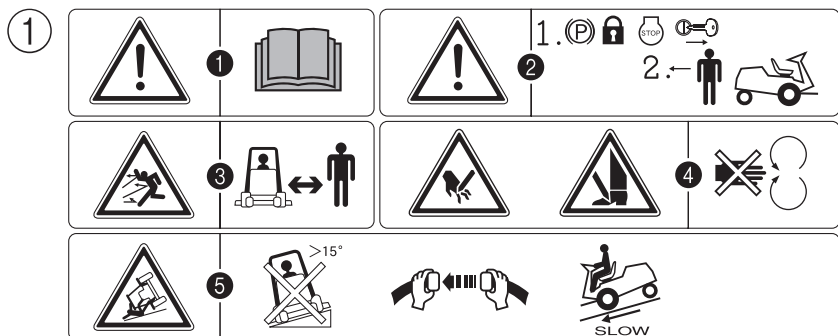
# 各部の名称



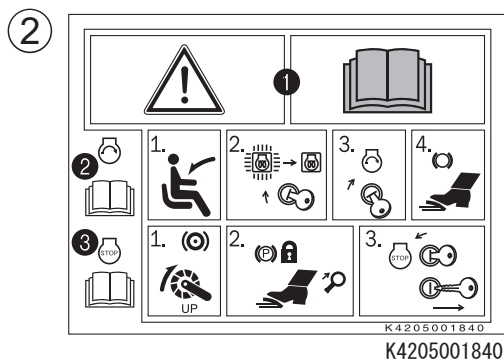


# 警告表示ラベル・指示ラベルの説明

危険な部分の近くには見やすい位置に、警告表示ラベルと指示ラベルを貼付しています。破損したりはがれたりした場合は新しいラベルを貼付してください。



- ① ⚠️ 警告 : 取扱説明書をお読みください。
- ② ⚠️ 警告 : 駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止し、エンジンキーを抜いてから機械を離れてください。
- ③ ⚠️ 危険 : 飛散物 — 作業員以外は機械から安全な距離を保つようにしてください。
- ④ ⚠️ 危険 : 手足を切る — 稼働部品に近づかないでください。
- ⑤ ⚠️ 危険 : 転倒 — 15度以上の傾斜の斜面での作業は転倒の危険がありますので禁止します。斜面を降りるときはシートベルトを着用し、低速で走行してください。



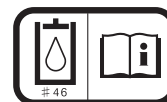
- ① ⚠️ 警告 : 取扱説明書をお読みください。
- ② エンジン始動手順  
(取扱説明書をお読みください)
  1. 着席する
  2. キーを「グロー」位置に回し、サーモスタートランプが消えるのを待つ。
  2. 「START」位置に回す。
  4. ブレーキペダルを踏んで駐車ブレーキを解除する。
- ③ エンジン停止手順
  1. ナイフ回転スイッチを切り、モアユニットを上げてください。
  2. 駐車ブレーキを掛ける。
  3. キーを「STOP」位置にして抜取ります。

- ③ ⚠️ 危険 : 手足を切る  
回転を停止し、エンジンを停止しないとケガをする危険があります。



K4205001600

- ④ 油圧オイルマーク  
取扱説明書をお読みください。



K4209000980

- ⑤ ⚠️ 注意 : 手足を切る  
エンジン回転中にファン、ベルトに手を近づけるとケガをする危険があります。



PFT0180-49571

- ⑥ ⚠️ 注意 : 高温  
火傷するので触らないでください。



K4205001540

- ⑦ ⚠️ 注意 : 挟まれ  
挟まれる場合があります。



K4205001580

- ⑧ 燃料マーク  
2号軽油を使用してください。



K4209001000

- ⑨ モアロックレバー  
#4、#5モアユニットを上げた状態で保管する場合は、モアロックレバーを掛けてください。



K4205001900

- ⑩ 冷却水の噴出に注意  
熱い時は開けないでください。



K4205001970

## LM2700 の特長

- 従来機に比べ、速い作業速さでも綺麗に刈ることができます。  
また、移動速さも速く旋回半径も小さいため、効率の良い作業ができます。
- 大排気量エンジンの採用により、余裕のある作業が出来ます。
- 新しい油圧走行回路、大型のディスクブレーキの採用等により安全性を高めています。
- 小柄な人から大柄な人まで最適なシートポジションでの作業ができます。
- # 2、# 3 モアユニットのメンテナンスが楽にできます。

## 仕 様

型 式	LM2700	
モ ア ユ ニ ッ ト 仕 様	26インチ	22インチ
駆 動 方 式	4輪駆動	
機 械 寸 法	全 長	300cm
	全 幅	320cm (移動時228cm)   297cm (移動時228cm)
	全 高	220cm (ハンドル150cm)
	ホ イ ー ル ベ ー ス	155cm
総 質 量	1,750kg	1,730kg
速 さ 車 輪	2 駆	0~22km/h
	4 駆	0~14km/h
	前 輪	26.5 × 14.00-12
	後 輪	20 × 12.00-10
エ ン ジ ン	型 式	クボタV2203-M 立形水冷4サイクルディーゼル
	シ リ ン ダ 数	4
	総 行 程 容 積	2.197L (2,197cm <sup>3</sup> )
	定 格 出 力	33.0kW (44.9PS) / 2,600rpm
	回 転 速 度	975~2,800rpm (無負荷時) (※1)
	燃 料 消 費 率 (2,500rpm時)	250g/kW・h (185g/PS・h)
パ ッ テ リ	105D31R	
刈 高	8~45mm (※2)	
刈 幅	277cm	254cm
リ ー ル カ ッ タ ー	9枚刃 66cm × 5 (リール径16.3cm)	9枚刃 56cm × 5 (リール径16.3cm)

(※1) 出荷時のエンジン最高回転速度は 2,600rpm

(※2) 10mm以下の場合オプションのベッドナイフが必要



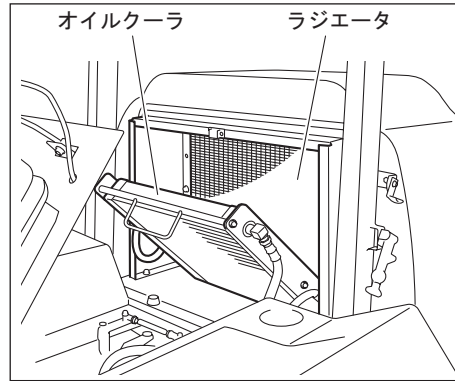
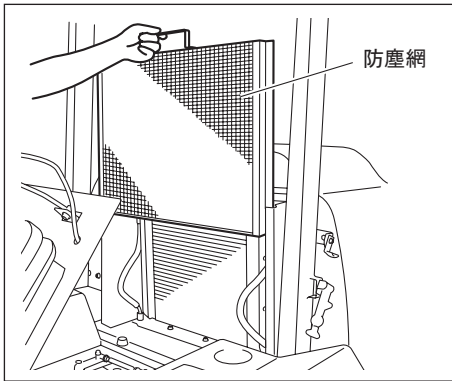
# 取扱説明

## 1. 使用前の点検

**注意** ・ 機械を始動する前には、必ず下記事項の点検を行ってください。

### 1-1 ラジエータとオイルクーラの清掃

ラジエータやオイルクーラ、防塵網にホコリが付着している場合は、必ず取除いてください。またホコリの多い所での作業では、早めに取除いてください。



**注意** ・ 清掃をしないとエンジンのオーバーヒート、焼付きの原因となります。また油圧機器の故障の原因にもなります。

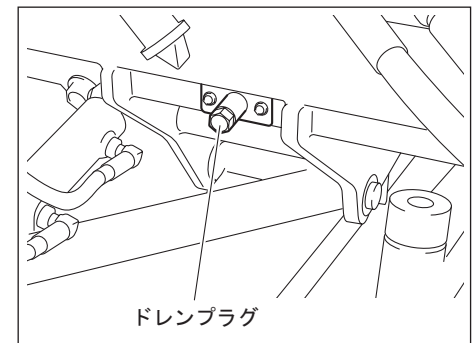
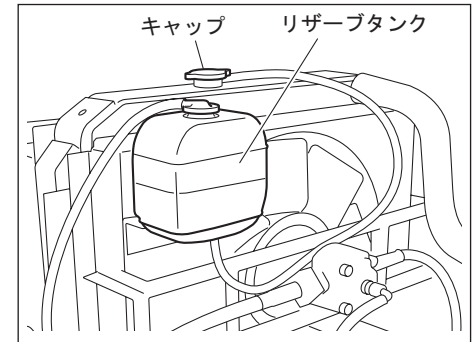
### 1-2 ラジエータ・冷却水量の点検

**注意**



・ 点検は、エンジンが冷えているときに行ってください。ラジエータのキャップは加圧式になっております。エンジンが過熱した状態でラジエータのキャップを取外しますと、「高温の蒸気が吹出して、火傷をする恐れ」があります。水温が下がり、圧力が下がってからキャップに厚手の布等を当て、徐々に左へ回して緩め、取外してください。

- ・ リザーブタンクの水位が「FULL」と「LOW」の間にあることを確認してください。
- ・ 冷却水が「LOW」の線より下の場合は、リザーブタンクのキャップ部から「FULL」の線まで補給してください。なお、リザーブタンクの冷却水が無い場合は、ラジエータのキャップ部からも口元まで補給してください。
- ・ 通常の点検では、ラジエータのキャップを開けないでください。
- ・ 減った冷却水の補給は必ずきれいな水をご使用ください。
- ・ 冬になる前に冷却水を排出するか、ロングライフクーラントを混入してください。
- ・ 排水は、本機左側にあるドレンプラグで行ってください。



JIS 規格品 ロングライフクーラント (LLC) 濃度と凍結温度の関係

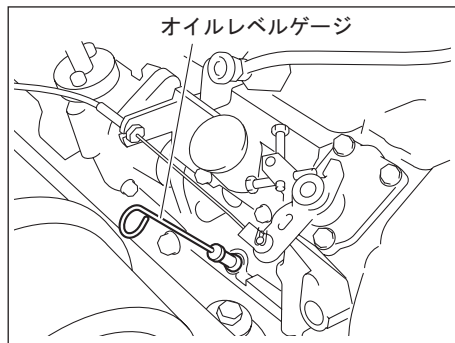
凍結温度	LLC濃度 (容量%)
-10°Cまで	20%
-15°Cまで	30%
-20°Cまで	35%
-25°Cまで	40%

※ 本機の冷却水容量は約 12L です。(リザーブタンクを含む)

### 1-3 エンジンオイルの点検・補給



エンジンを水平状態にして、オイルレベルゲージでオイルの量を調べてください。オイルレベルゲージをいっぱいに入らせずに上限と下限の間にあれば適量です。オイルが不足している場合は補給し、汚れている場合は交換してください。オイルレベルの点検は、エンジンを停止して、「10～20分後」に行ってください。エンジンオイルの入過ぎは、エンジンの破損、事故の原因となりますのでご注意ください。



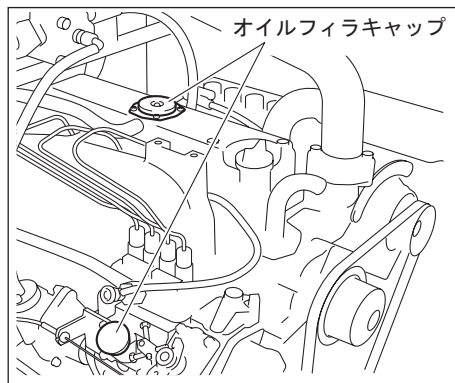
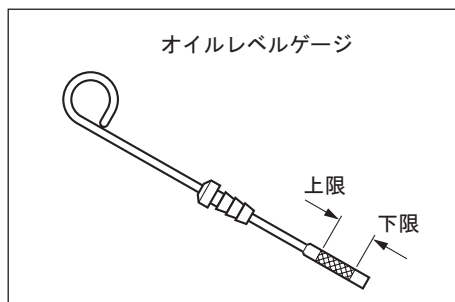
エンジンオイルの補給はオイルフィラより行ってください。

補給したエンジンオイルは、オイルパンに下がるまである程度時間を要します。補給してから「10～20分後」に、オイルの量を再度点検してください。

※ 絶対に異った種類のエンジンオイルを混ぜないでください。

※ エンジンオイルはAPI サービス分類のCF級以上で、ご使用の環境（気温）に合せたSAE粘度のオイルを使用してください。

※ エンジンオイル容量は約9.7Lです。



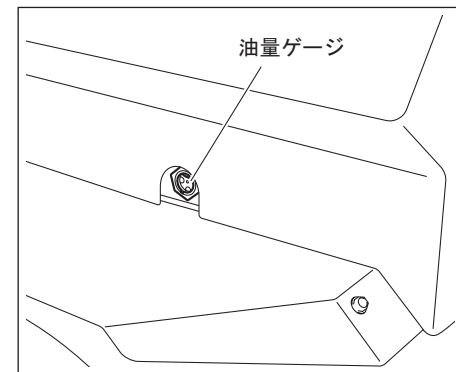
### 1-4 油圧作動油の点検

機械を水平にして、モアユニットを上げた状態にします。油量ゲージでオイルの中心まで作動油が入っているか常に点検し、少ないときは補給してください。

作動油の補給はシェルテラス S2M46 相当品を使用してください。

※ 絶対に異った種類の作動油を混ぜないでください。

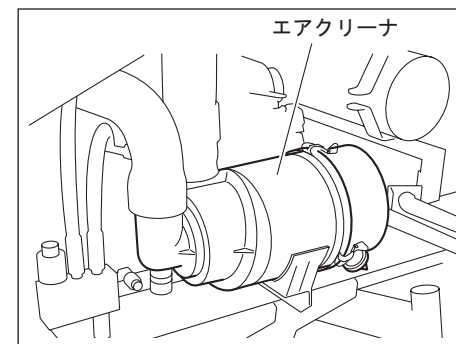
※ タンク容量は約44Lです。



### 1-5 エアクリーナの清掃

点検はバキュームインジケータで行ってください。

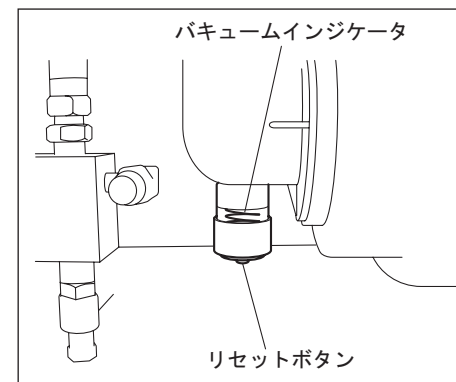
エアクリーナのエLEMENTが汚れてくるとバキュームインジケータに赤いリングが見えてきますので、ELEMENTを取外し清掃を行ってください。



エアクリーナのエLEMENTが汚れていると、エンジン不調の原因となります。汚れている場合は、ELEMENTを傷つけないように、注意して軽く叩くか、内側からエアを吹付けて清掃してください。

掃除後はELEMENTを装着し、リセットボタンを押してください。

エアクリーナのエLEMENTは200時間毎に交換してください。



## 1-6 エンジン周りの点検



エンジンの取扱いについては、エンジン取扱説明書を参照してください。



- 1) 燃料系の部品は、ひび割れや漏れがないかを確認し、必要があれば交換してください。
- 2) マフラの中や周りに、草や葉および可燃物が付着している場合は、エアを吹きつけて清掃してください。

## 1-7 タイヤの点検

タイヤの空気圧、亀裂、損傷、異常磨耗を調べてください。

空 気 圧	
前 輪	150kPa (1.5kgf / cm <sup>2</sup> )
後 輪	140kPa (1.4kgf / cm <sup>2</sup> )

## 1-8 ブレーキの点検

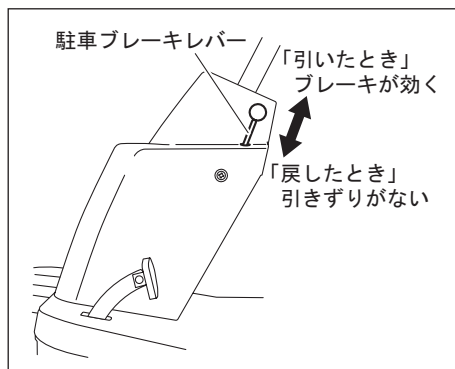
### 1) フットブレーキ

- ・ブレーキペダルを強く踏込み、ブレーキが効くことを確認してください。

※ ブレーキの効きが悪い場合は、必ず調整、修理してから使用してください。

### 2) 駐車ブレーキ

- ・フットブレーキを踏みながら駐車ブレーキレバーを引いたとき、ブレーキが効くことを確認してください。
- ・フットブレーキを踏み、駐車ブレーキを解除したとき、ブレーキの引きずりがないことを確認してください。



## 1-9 燃料の補給と取扱上の注意



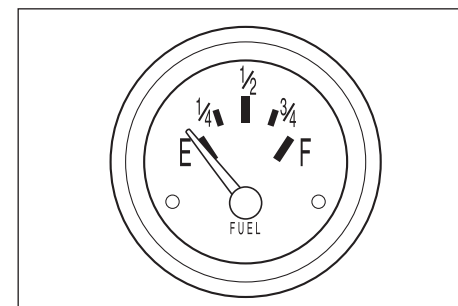
機械を水平な状態にします。

燃料計の燃料ゲージがE (EMPTY) に近づいたら早めに燃料 (軽油) の補給を行ってください。

燃料を入過ぎると、傾斜地での走行・作業時等にキャップより燃料があふれる可能性があります。

※ 燃料はローサルファ、またはウルトラローサルファディーゼルフェュエル (JIS 2号軽油) を使用してください。

※ タンク容量は約 51L です。



### ⚠ 危険



- ・燃料給油時は火気厳禁です。すべての裸火とタバコを消してください。
- ・燃料の補給は屋外で、エンジンを停止し、エンジンを十分に冷やしてから行ってください。
- ・火災を防ぐため、機械は常にきれいに保ち、ゴミの堆積、グリース、オイルの付着がないようにしてください。
- ・こぼれた燃料は、きれいに拭取ってください。

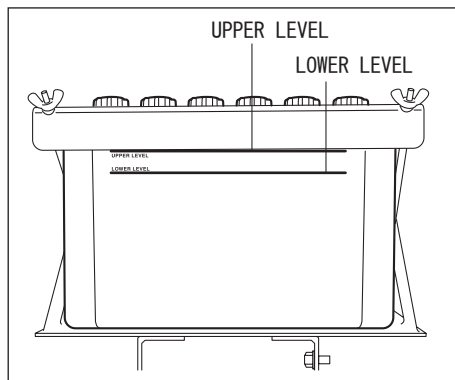
## 1-10 バッテリーの点検



バッテリーの取扱いについては、バッテリー取扱説明書を参照してください。

水で湿らせた布で液面線の周囲を清掃し、液面が「UPPER LEVEL」（最高液面線）と「LOWER LEVEL」（最低液面線）の間にあることを確認してください。

液面が「UPPER LEVEL」と「LOWER LEVEL」間の半分以下に低下している場合は、ただちに「UPPER LEVEL」まで精製水を補水してください。



### ⚠ 危険



- ・ バッテリー液を飲んだり、身体や目、衣服等に付かないように注意してください。また、作業するときは必ず保護メガネと保護服を着用してください。
- ・ バッテリーの点検や充電時は火気厳禁です。また、バッテリー液は希硫酸ですので、身体や車体に付けないでください。もし付着した場合は直ちに水でよく洗い、特に目に入ったときや飲込んだ場合は、速やかに医師の治療を受けてください。
- ・ バッテリーの付近は火気厳禁です。
- ・ バッテリーからケーブルを外すときはマイナス（-）側から外し、取付けるときはプラス（+）側から取付けてください。逆にすると工具等が機体に接触した場合ショートして火花が生ずる恐れがあります。
- ・ バッテリーケーブルを接続するときはプラスとマイナスを間違えないようにしてください。もし間違えた場合、バッテリーやバッテリー電装品を損傷させます。（赤色ケーブルはプラス側です。）
- ・ バッテリーの清掃に乾いた布を使うと静電気が発生し引火・爆発する恐れがあります。

## 2. 各部の締付け

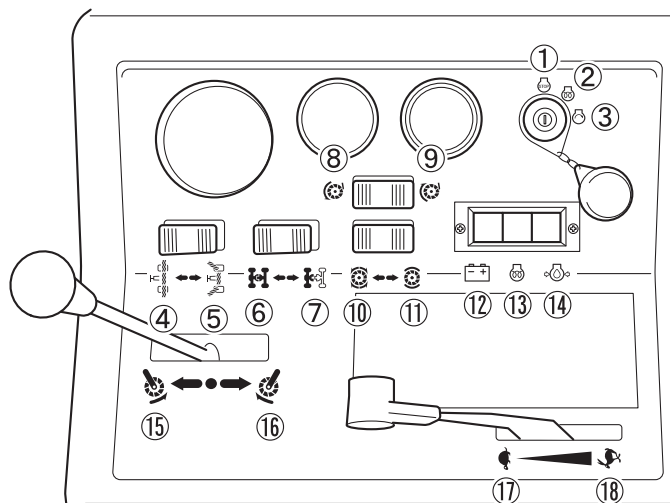
各部には、ボルト止めが多く使用されており、初めのうちは使用しますと、ボルト・ナット等の緩みが出る場合がありますので、必ず増締めを行ってください。

適正締付トルクN・m (kgf・cm)

呼び径	一般ボルト 強度区分4.8	調質ボルト 強度区分10.9
M6	7~9 (71.38~91.77)	14~18 (142.76~183.55)
M8	14~19 (142.76~193.74)	28~38 (285.52~387.49)
M10	29~38 (295.71~387.49)	58~76 (591.43~774.97)
M12	52~67 (530.24~683.20)	104~134 (1,060.49~1,366.40)
M14	70~94 (713.79~958.52)	140~188 (1,427.58~1,917.04)
M16	88~112 (897.34~1,142.06)	210~260 (2,141.37~2,651.22)
M18	116~144 (1,182.85~1,468.37)	280~340 (2,855.16~3,466.98)
M20	147~183 (1,498.96~1,866.05)	370~450 (3,772.89~4,588.65)

### 3. 各部の操作方法

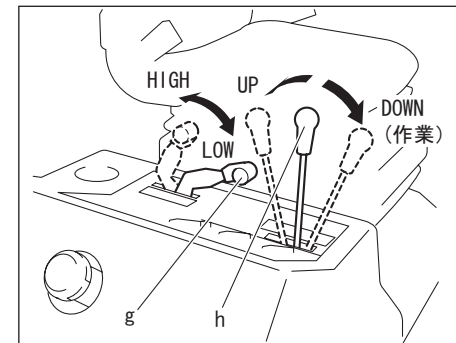
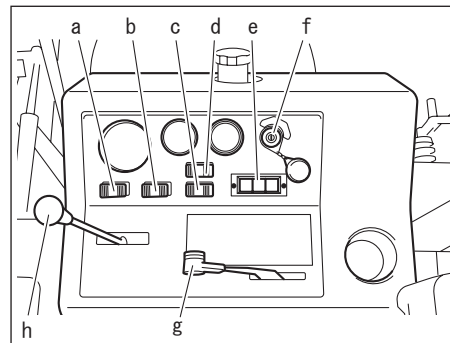
#### ● 操作パネルマークの説明



図中No.	マーク	名称	図中No.	マーク	名称	図中No.	マーク	名称
①		ストップ	⑦		2WD	⑬		サーモスタート (グロー)
②		グロー	⑧		刈込	⑭		エンジン油圧
③		スタート	⑨		ラッピング	⑮		モア下げ
④		作業	⑩		リール回転	⑯		モア上げ
⑤		移動	⑪		リール停止	⑰		低速
⑥		4WD	⑫		チャージ	⑱		高速

#### ● 操作パネルのスイッチ、レバー

- a. 移動・作業切換スイッチ
- b. 2WD・4WD 切換スイッチ
- c. リール回転スイッチ
- d. リール正転・逆転スイッチ
- e. パイロットランプ
- f. キースイッチ
- g. スロットルレバー
- h. モアユニット昇降レバー



#### ⚠ 注意

#### 3-1 機械操作について

機械を操作する前に、各 부품の操作状態が良好であり、特にブレーキ、タイヤ、ステアリング、及びモアユニットに異常がないか確認してください。  
 どのような場合にも、緊急停止ができるような速さで運転してください。  
 作業地域内の障害物は取払い、運転者あるいは周囲の人がケガをしないようにしてください。

#### ⚠ 警告

#### 3-2 エンジンを始動する前に



- ・ 機械の周囲に人や障害物がないか安全を確認してください。
- ・ カバー類が正しい位置にあり、損傷していないか確認してください。
- ・ 適切な換気装置のない建物内では始動しないでください。



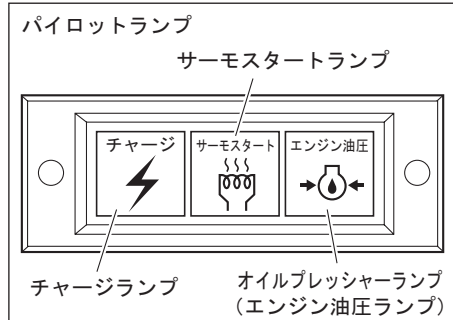
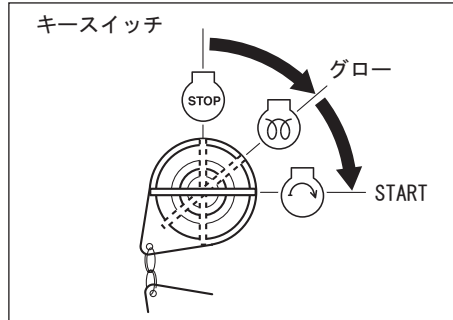
### 3-3 エンジン始動・停止 (P)



・ エンジン停止状態でモアユニット昇降レバーを DOWN にし、キースイッチを ON にするとモアユニットが下降しますので注意してください。

#### ● 始動手順

- 1) シートに座ってください。
- 2) ブレーキペダルを踏んで、駐車ブレーキレバーを引上げ、駐車ブレーキをかけてください。(3-7 参照)
- 3) リール回転スイッチを「停止」の位置にしてください。(3-15 参照)
- 4) スロットルレバーを少し手前に引ってください。(3-17 参照)
- 5) キーを右に回しグローの位置にするとサーモスタートランプが点灯し、ディーゼルエンジンの燃焼室が余熱されます。
- 6) サーモスタートランプが消えたら速やかにキーを右方向へ一杯回すと、スタータが回転し、エンジンが始動しますので、キーから手を離してください。
- 7) チャージランプとエンジン油圧ランプが消えるのを確認してください。もし消えないときは、エンジンを止めて点検整備を行ってください。



・ 変速ペダルに足を置かないでください。本機が動き、大変危険です。

・ エンジン回転中はファンベルト、プーリ等回転部には触れないでください。

・ スタータの操作は最長 15 秒です。それでも始動しないときは 30 ~ 60 秒間バッテリーを休止させ、消耗を防いでください。



#### ● 停止手順

- 1) ブレーキペダルを踏んで、駐車ブレーキレバーを引上げ、駐車ブレーキをかけてください。(3-7 参照)
- 2) リール回転スイッチを「停止」の位置にしてください。(3-15 参照)
- 3) スロットルレバーを「LOW」に戻してください。(3-17 参照)
- 4) キーを左に回し「STOP」の位置にすれば停止します。

### 3-4 安全装置について

本機にはエンジンの始動・停止に対する安全装置が装着されています。

● エンジンを始動するときは、以下の 3 つの条件が必要です。


- a. シートに座る
- b. 駐車ブレーキをかける
- c. リール回転スイッチを「停止」にする



● エンジンをかけたままでシートから離れるときは、駐車ブレーキをかけた状態でないとエンジンが停止します。



### 3-5 機械を離れるときの注意 (P)

- 1) 機械を平らな所に停止させ、駐車ブレーキをかけてください。
- 2) リール回転スイッチを「停止」の位置にして、モアユニットを完全に降してください。
- 3) エンジンを停止します。
- 4) キーを抜いてから離れてください。
- 5) ブレーキの効きがあまりいときには、車輪止めを使用し固定してください。

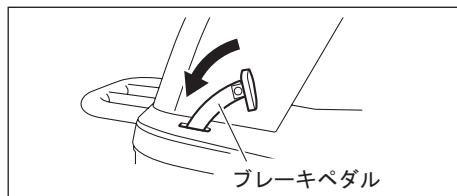


・ 傾斜地での駐車は、絶対にしないでください。

### 3-6 ブレーキペダル

ブレーキペダルを踏込むと、ブレーキが効きます。

※ ブレーキの効きが悪い場合は、必ず調整、修理してから使用してください。

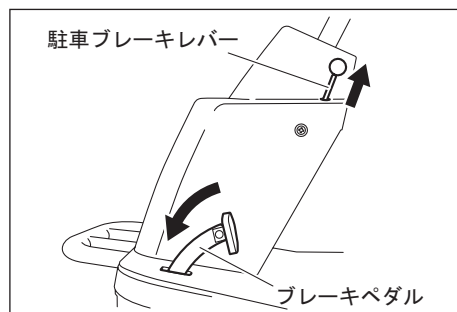


### 3-7 駐車ブレーキ (P)

駐車ブレーキはセンターカバー左側にあります。

ブレーキペダルを踏んで、駐車ブレーキレバーを引上げ、駐車ブレーキをかけてください。

駐車ブレーキを解除するにはブレーキペダルを再度踏込みます。



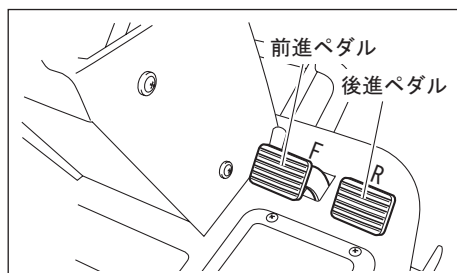
**注意**

- 絶対に駐車ブレーキを解除してから走行してください。ブレーキや油圧機器を傷めます。
- 傾斜地で駐車しないでください。

### 3-8 前・後進ペダル

2ペダル方式を採用しています。

前進させるには、内側のペダルを踏み、後進させるには、外側のペダルを踏込みます。ペダルの踏込み量により速さが変わります。ペダルから足を離すと、機械は自動的に停止します。



**警告**

- 公道での走行は法律の関係によりできません。

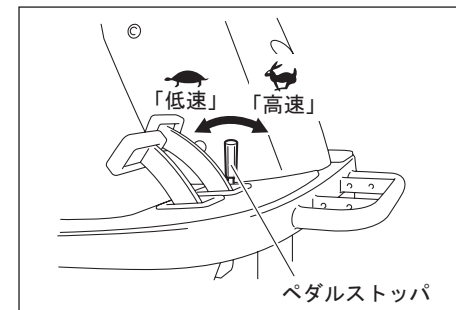


**注意**

- スピードが速いときは走行ペダルから足を離してもすぐには停止しません。必要に応じてブレーキを併用してください。

### 3-9 ペダルストップパ

前進ペダルの踏込める量を変えるレバーです。「低速」側にすると踏込める量が少なくなります。

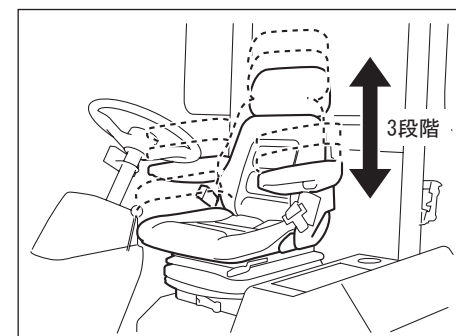
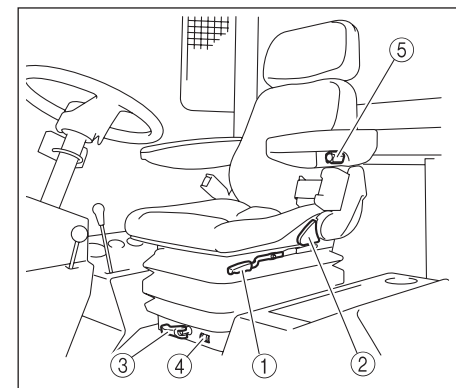


**注意**

- 2輪駆動での走行は必ず「低速」側にしてください。「高速」側で走行すると、ペダルの最大踏込み時に速くなりすぎて大変危険です。

### 3-10 シートの調整

- レバー①の操作でシートを前後に調節できます。
- レバー②の操作で背もたれの角度調節ができます。
- ハンドル③を回すことによりシートのサスペンションの固さを調節できます。目盛④で確認しながら調節してください。(50 ~ 130kgf)
- ノブ⑤を回すことによりアームレストの角度調整ができます。
- シート全体を持上げることでシートの高さが 3段階に調整できます。

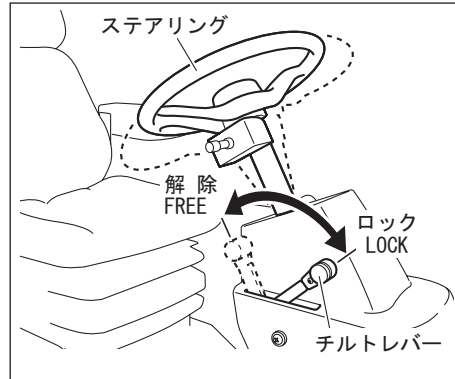


### 3-11 チルトステアリング

ステアリングの角度を調整することができます。

チルトレバーを手前に引くとロックが解除されステアリングの調整ができます。

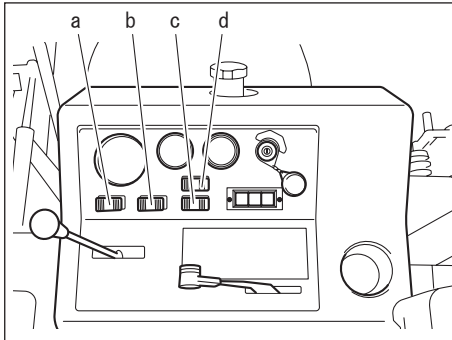
ハンドル角度を決めてチルトレバーを前方に押しして再度ロックしてください。



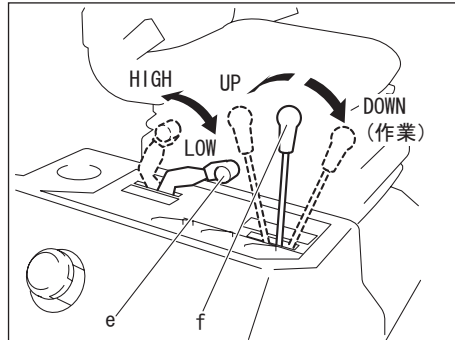
**⚠ 注意** ・ロックは確実に行ってください。走行中に緩むと大変危険です。

### 3-12 操作パネルのスイッチ、レバー

- a. 移動・作業切換スイッチ
- b. 2WD・4WD 切換スイッチ
- c. リール回転スイッチ
- d. リール正転・逆転スイッチ

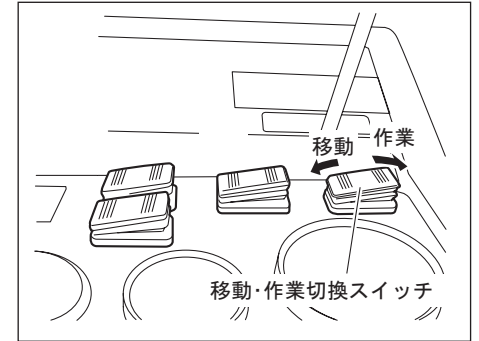


- e. スロットルレバー
- f. モアユニット昇降レバー

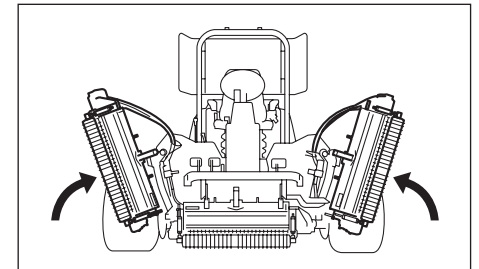


### 3-13 移動・作業切換スイッチ

上昇させたときの#4、#5モアユニットの止まる位置を変更することができます。

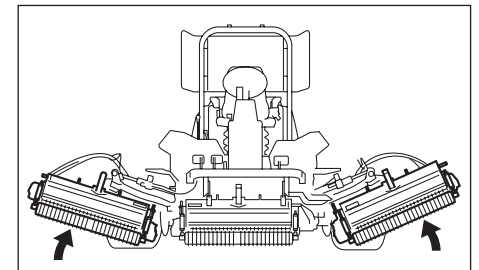


「移動」側選択時



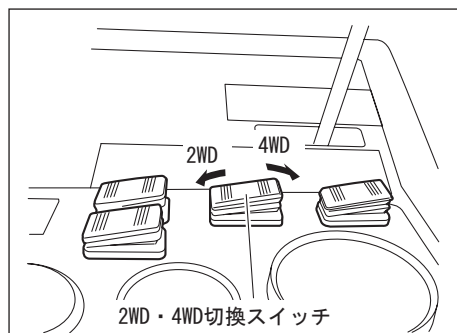
スイッチを「移動」側に倒すと#4、#5モアユニットは一番上まで上り、「作業」側に倒すと#4、#5モアユニットは途中までしか上らなくなります。

「作業」側選択時



### 3-14 2WD・4WD 切換スイッチ

2輪駆動（前輪）での走行と4輪駆動での走行を選択するスイッチです。「2WD」側に倒すと2輪駆動、「4WD」側に倒すと4輪駆動になります。



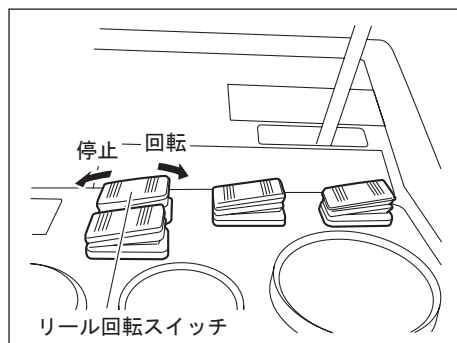
#### ⚠ 注意

- ・作業中および傾斜地での移動は、必ず4輪駆動を選択してください。
- ・傾斜やアンジュレーションを含め、道路及び地面の状態に配慮して機械の運転をしてください。
- ・スイッチの操作は必ず停止した状態で行ってください。油圧機器が故障をおこす恐れがあります。



### 3-15 リール回転スイッチ

リールの回転を「入」、「切」するスイッチです。「回転」側にスイッチを倒すとリールは回転し、「停止」側にスイッチを倒すとリールの回転は停止します。リール回転スイッチは、リール正転・逆転スイッチで回転方向を決めてから操作してください。



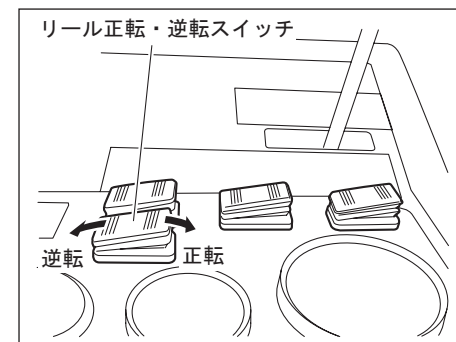
#### ⚠ 注意

- ・モアユニットが上がった状態ではリールは回転しません。
- ・機械の周囲に人がいないことを確認してから操作してください。



### 3-16 リール正転・逆転スイッチ

リールの回転方向を選択するスイッチです。「正転」側にスイッチを倒すとリールは正転（刈込方向）し、「逆転」側にスイッチを倒すとリールは逆転（ラッピング回転）します。

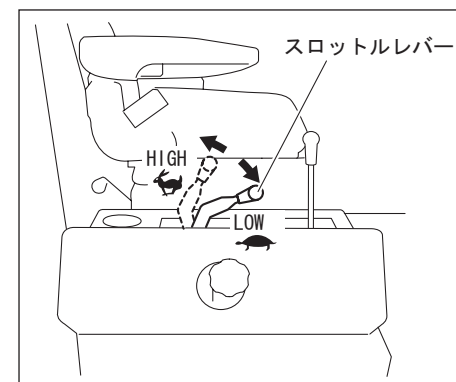


#### ⚠ 注意

- ・リール回転スイッチを操作しないとリールは回転しません。
- ・リールが回転した状態で正転と逆転の切換はしないでください。油圧機器が故障をおこす恐れがあります。

### 3-17 スロットルレバー

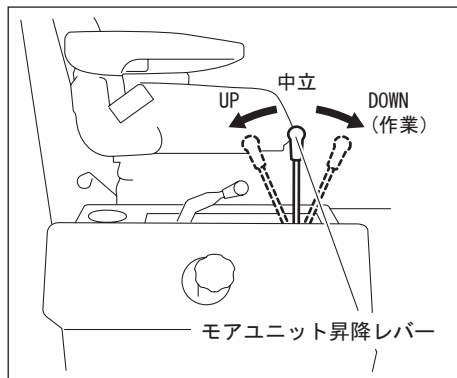
スロットルレバーは引上げる（HIGH）とエンジン回転速度が高くなり、下げる（LOW）とエンジン回転速度は低くなります。



### 3-18 モアユニット昇降レバー

モアユニットの昇降を行うレバーです。「UP」側にレバーを倒すとモアユニットは上昇し、「DOWN」側に倒すとモアユニットは下降します。

刈込時はレバーを「DOWN」側に倒した状態で作業してください。中立に戻すとシリンダが固定され、アンジュレーションに対応することができません。



#### ⚠ 注意

- ・ 昇降レバーの操作は、機械の周囲に人、障害物がないか安全を確認してから操作してください。

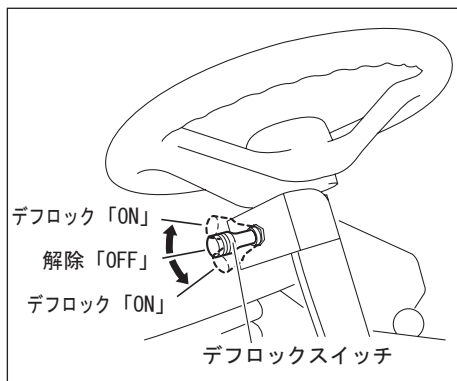


- ・ エンジン停止状態でモアユニット昇降レバーを DOWN にし、キースイッチを ON にするとモアユニットが下降しますので注意してください。

### 3-19 デフロックスイッチ

ハンドルの下、右側についています。左右の前輪のデフロックを操作するスイッチです。

スイッチを上側または下側に倒すと前輪がデフロック状態になります。スイッチを離すとスイッチは中立に戻り、デフロックは解除されます。



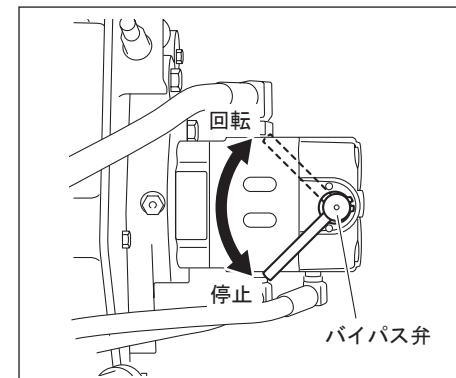
#### ⚠ 注意

- ・ デフロックの操作は、必要なとき以外は絶対に行わないでください。油圧機器が故障をおこす恐れがあります。

### 3-20 バイパス弁

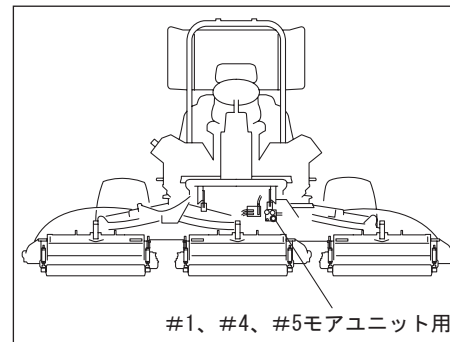
各モアユニットの油圧モータについています。

レバーを停止側にすると油圧モータがフリーになります。

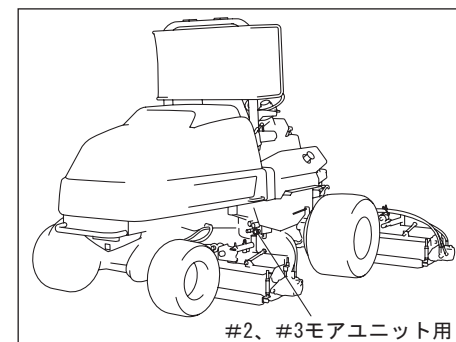


### 3-21 リール回転調整バルブ

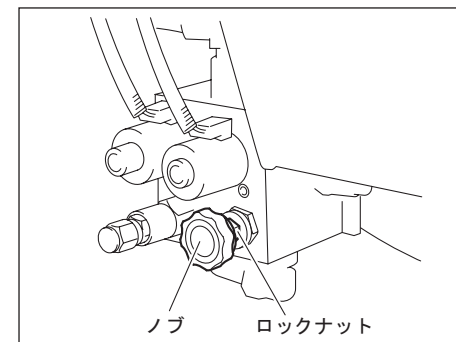
〈#1、#4、#5モアユニット用〉



〈#2、#3モアユニット用〉



リールカッターの回転速度を調整するバルブです。ロックナットを緩め、ノブを締めこんでいくと回転速度は遅くなります。調整後は必ずロックナットを締め付けてください。

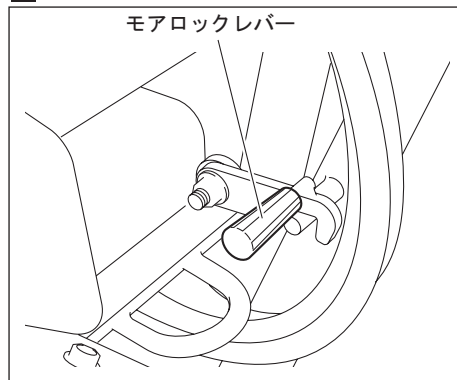




### 3-22 モアロックレバー



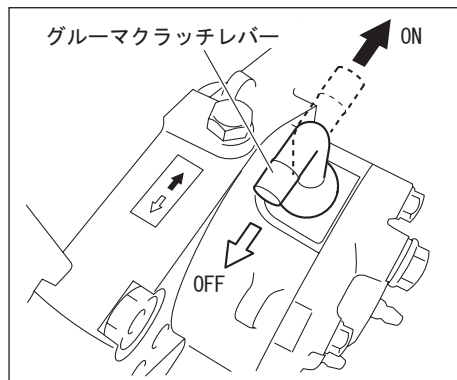
#4、#5 モアユニットを上げた状態で保管する場合は、モアロックレバーを掛けてください。



### 3-23 グルーマクラッチレバー (オプション)

グルーマの「ON」、「OFF」を操作するレバーです。

グルーマ作業をしないときは、必ず「OFF」にしてください。



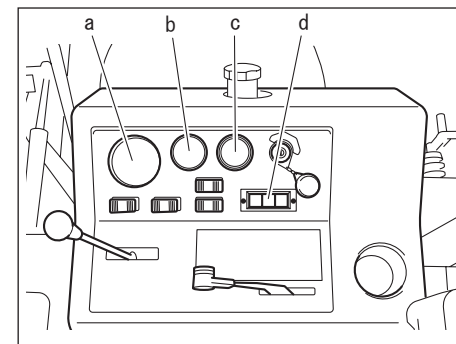
#### ⚠ 注意

- ・ グルーマクラッチレバーを上方向に引かないでください。グルーマケースから抜けて内部のスイッチボールがケース内に落ちる恐れがあります。

## 4. 各部の計器

### 4-1 操作パネルの計器類

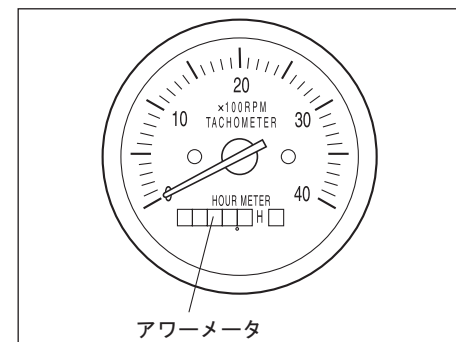
- a. タコメータ&アワーメータ
- b. 水温計
- c. 燃料計
- d. パイロットランプ
  - ・ チャージランプ
  - ・ サーモスタートランプ
  - ・ オイルプレッシャーランプ (エンジン油圧ランプ)



### 4-2 タコメータ、アワーメータ

エンジンの回転速度と総運転時間を示します。

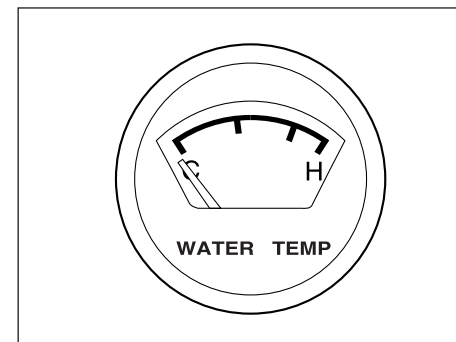
定期点検、整備はこの時間数に基づいて実施してください。



### 4-3 水温計

運転中に水温計が「H」付近まで上昇した場合は、オーバーヒート状態です。エンジンを無負荷にしてアイドリング状態で5分間運転した後、エンジンを止めて点検整備をしてください。

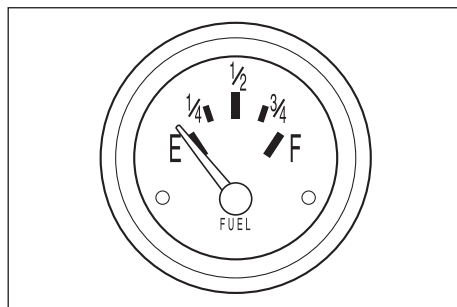
- 水温が115°Cになるとブザー (断続音) がなります。



#### 4-4 燃料計

燃料タンク内の燃料の量を示す計器です。燃料ゲージがE (EMPTY) に近づいたら早めに燃料 (2号軽油) の補給を行ってください。

※燃料タンクの容量は約 51L です。



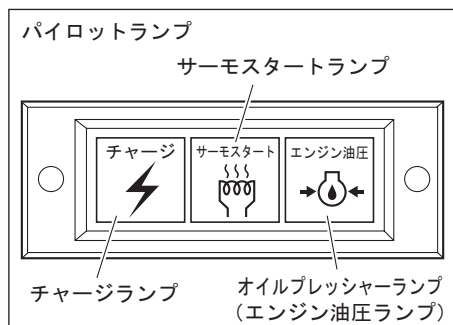
#### ⚠ 危険

・燃料タンクに燃料を入れすぎないでください。作業中にあふれ、火災の原因となります。ガソリンは絶対に入れないでください。



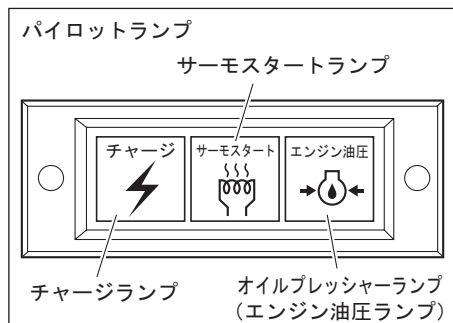
#### 4-5 チャージランプ

キースイッチが「ON」の位置で点灯します。エンジンが始動し、正常に充電されると消灯します。運転中に点灯した場合は、すぐエンジンを止めて点検整備してください。



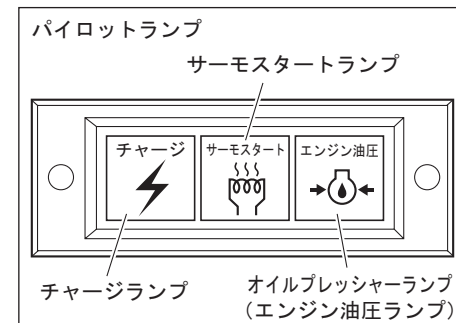
#### 4-6 サーモスタートランプ

3-3 エンジン始動・停止を参照してください。



#### 4-7 オイルプレッシャーランプ (エンジン油圧ランプ)

キースイッチが「ON」の位置で点灯します。エンジンが始動し、オイルが循環し始め正常な圧力になると消灯します。運転中に点灯した場合は、すぐエンジンを止めて点検整備してください。



## 5. 刈込み作業



- 1) スロットルレバーを引上げ、エンジン回転速度を MAX (2,600rpm) にしてください。(3-17 参照)
  - 2) 2WD・4WD 切換スイッチを「4WD」側にしてください。(3-14 参照)
  - 3) 移動・作業切換スイッチを「作業」側にしてください。(3-13 参照)
  - 4) リール正転・逆転スイッチを「正転」側にしてください。(3-16 参照)
  - 5) モアロックレバーを解除してください。(3-22 参照)
  - 6) モアユニット昇降レバーを「DOWN」側に倒し、モアユニットを降してください。(3-18 参照)
  - 7) リール回転スイッチを「回転」側にし、リールを回転させてください。(3-15 参照)
  - 8) 前進ペダルを踏込んで、作業を始めてください。
- ※ その後はモアユニットの昇降に連動してリールの回転も回転・停止します。



### 注意

- ・必ず作業条件にあった速さで作業してください。
- ・リール回転はモアユニットの位置を感知して「入」、「切」していますので、モアユニットが上りきらないうちにモアユニット昇降レバーの操作をやめると、リール回転が停止しない場合がありますので注意してください。

## 6. 運搬

トラックに積込むときは前進で、降りるときは後進で行ってください。  
本機にルーフを取付けている場合は、取外してください。

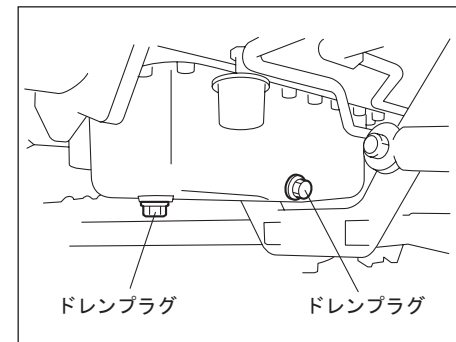
## 7. メンテナンス・本体

### 7-1 エンジンオイルの交換



エンジンの取扱いについては、エンジン取扱説明書を参照してください。

- 1) オイル交換は、最初 50 時間使用して交換し、その後は 100 時間毎に交換してください。
- 2) エンジン底部にあるドレンプラグを外して汚れたエンジンオイルを抜取ります。エンジンが温かいうちに行うと完全にオイルを排出することができます。



### 注意

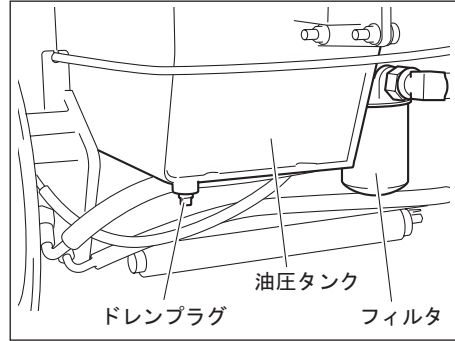


- ・エンジンオイルは SAE 粘度 API サービス分類の CF 級以上を使用してください。
- ・長時間運転した直後はエンジンオイルが高温になっており、ドレンプラグを外すときに火傷をしますので、少し時間をおいてから交換してください。

### 7-2 油圧作動油の交換

- 1) 油圧作動油の交換は最初 100 時間使用して交換し、その後は 1 年又は 500 時間の短いほうで交換してください。
- 2) フィルタは、作動油交換時に合せて交換してください。
- 3) 油圧タンク底部にあるドレンプラグを外して、汚れた作動油を抜取りませ。
- 4) 作動油が、乳化または透明度が悪くなったときはすぐに交換してください。
- 5) 作動油補充は、シェルテラス S2M46 相当品をお使いください。

※ 油圧タンク容量は約 44L です。



### 7-4 各部のグリースアップ

次にあげる場所に、グリースニップルが取付けてありますので、50 時間毎にグリースアップしてください。

後輪関係			⑩	#1モア連結金具	1ヶ所
①	キングピン	2ヶ所	⑪	#2リフトアーム	1ヶ所
②	ピボット	1ヶ所	⑫	#2旋回金	1ヶ所
ペダル部			⑬	#2モア連結金具	1ヶ所
③	ブレーキペダル	1ヶ所	⑭	#3リフトアーム	1ヶ所
④	ブレーキ金	1ヶ所	⑮	#3旋回金	1ヶ所
⑤	前進ペダル	1ヶ所	⑯	#3モア連結金具	1ヶ所
⑥	後進ペダル	1ヶ所	⑰	#4リフトアーム	2ヶ所
⑦	ポンプアイドルレバー	1ヶ所	⑱	#4モア連結金具	1ヶ所
⑧	ポンプ中立レバー	1ヶ所	⑲	#5リフトアーム	2ヶ所
リフトアーム関係			⑳	#5モア連結金具	1ヶ所
⑨	#1リフトアーム	2ヶ所			

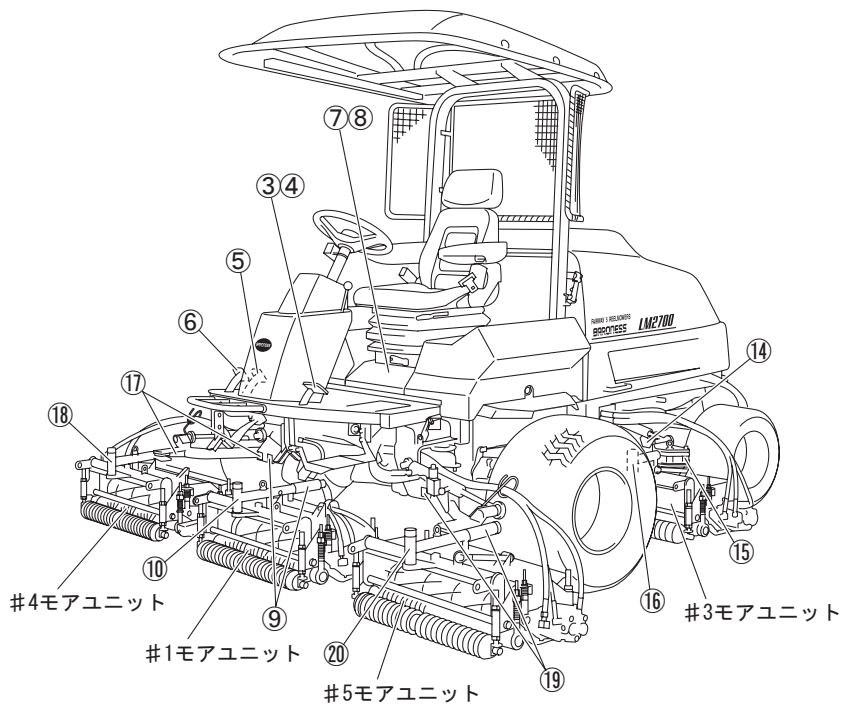
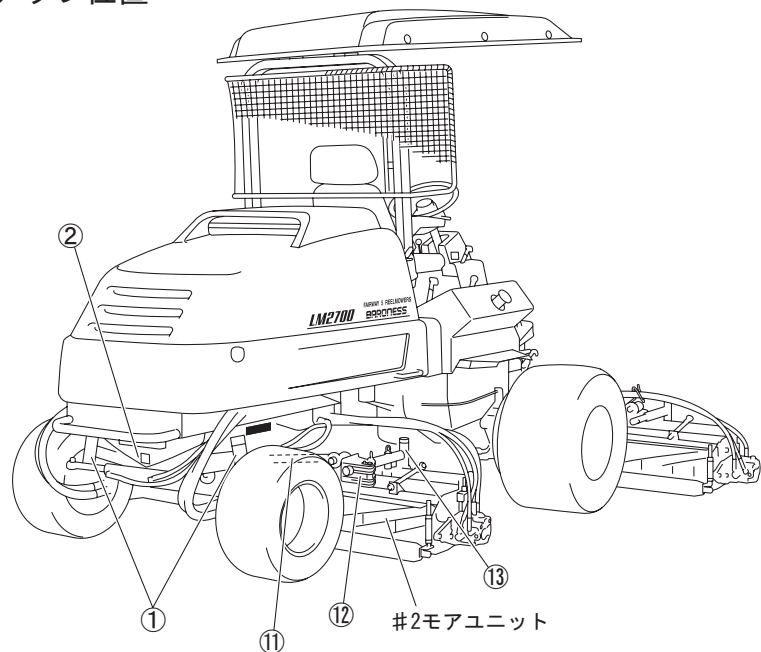
※グリースアップ位置は次ページを参照してください。

### 7-3 各部油漏れの点検

油圧ホースの金具、ポンプ、シリンダ等についている油圧金具などは 50 時間ぐらい使用すると、締付け部の緩み等で油が漏れることがありますので、増締めをしてください。

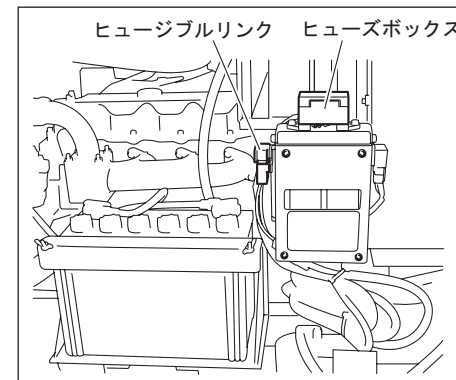
※油圧タンクにはレベルセンサが取付けてあります。  
作動油が約 2L 減るとブザー（連続音）が鳴ります。

## グリースアップ位置

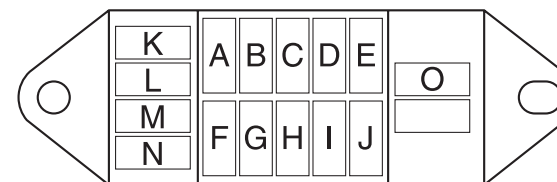


## 7-5 ヒューズの交換

- 1) ヒューズボックス  
ヒューズボックス内にスペアヒューズ、交換工具が付属されています。規定容量のものと交換してください。ヒューズは自動車用ミニヒューズです。
- 2) ヒューズブルリンク  
ヒューズブルリンクのヒューズ容量は50Aです。



ヒューズボックス

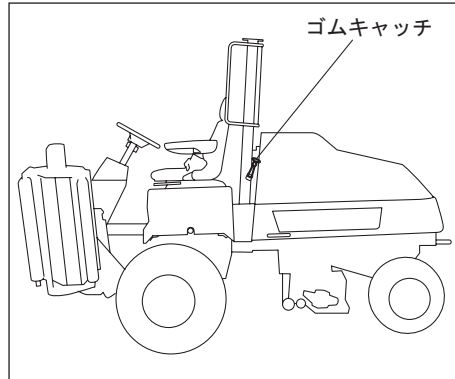


A	5A	タイマ
B	5A	サーモスタートランプ
C	5A	タコメータ、燃料計、水温計、チャージランプ オイルプレッシャー（エンジン油圧）ランプ 水温ブザー、作動油ブザー
D	15A	リレーボックス1
E	15A	リレーボックス2、デフロク
F	-	
G	5A	タイマ
H	5A	オルタネータ
I	5A	燃料ポンプ、クーリングファンバルブ セーフティリレー、停止ソレノイド
J	5A	リレー（セルモータ）
K	5A	スペア
L	5A	
M	15A	
N	15A	
O		ヒューズ抜き用工具



### 7-6 ボンネットの開閉

左右にあるゴムキャッチを外し、ボンネットを上へ引上げてワイヤが伸びきるまで開けてください。  
閉じるときはゆっくりと下げてください。



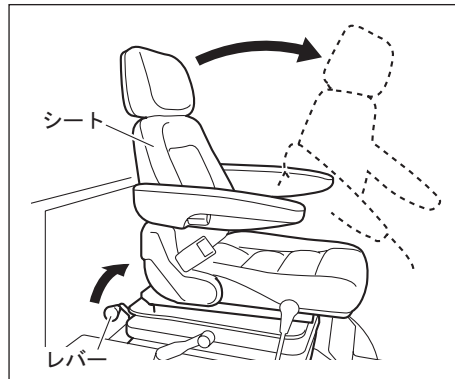
#### ⚠ 注意

- ・ボンネットを閉めるときに手をはさまないように注意してください。
- ・風が強い場所ではボンネットを開けないでください。



### 7-7 シート下カバーの開閉

開けるときはチルトステアリングを一番立てた状態にし、シートの前後調整を一番後ろにします。  
シートの後にあるレバーを引上げるとロックが外れますので、シートを前に倒しカバーを開けてください。閉じるときはゆっくりと下げてください。



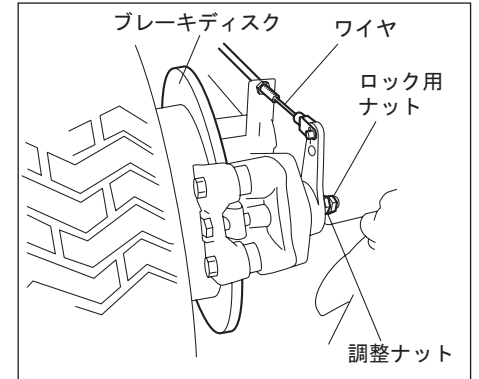
#### ⚠ 注意

- ・閉めるときに手をはさまないように注意してください。



### 7-8 ブレーキの調整

ブレーキディスクとパッドの隙間が大きくなり、ブレーキの効が悪くなってきたら隙間調整をしてください。  
調整はロック用ナットを緩め、調整ナットを締込んでいくと隙間が小さくなります。適正な隙間に調整したら確実にロック用ナットを締めてください。  
微調整はワイヤで行えます。必ず左右のブレーキの効が同じになるように調整してください。

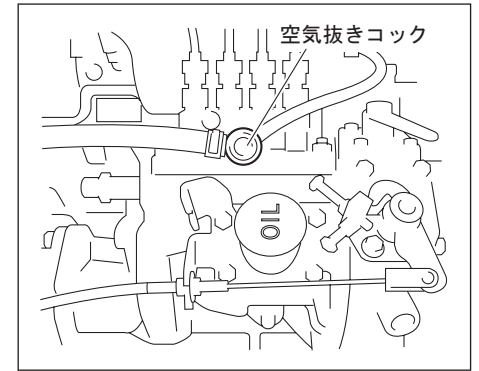


#### ⚠ 危険

- ・隙間が小さすぎると発熱し火災の原因になります。
- ・左右のブレーキの効が違っていると、思わぬ事故をおこす恐れがあります。

### 7-9 燃料の空気抜き

自動エア抜きのため、空気抜きの操作は不要です。  
※空気抜きコックは、常に全開の状態で使用してください。  
閉じた状態で使用すると、エンストの原因になります。

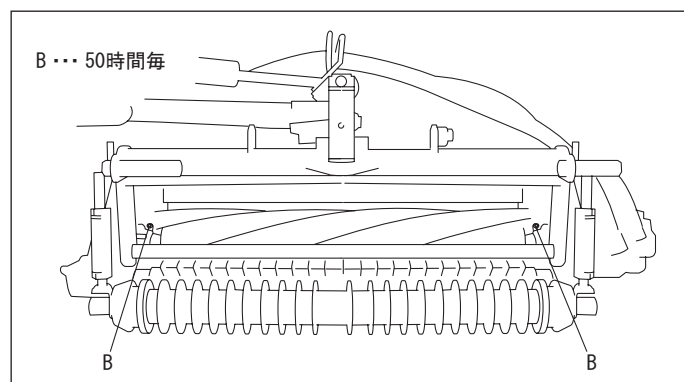
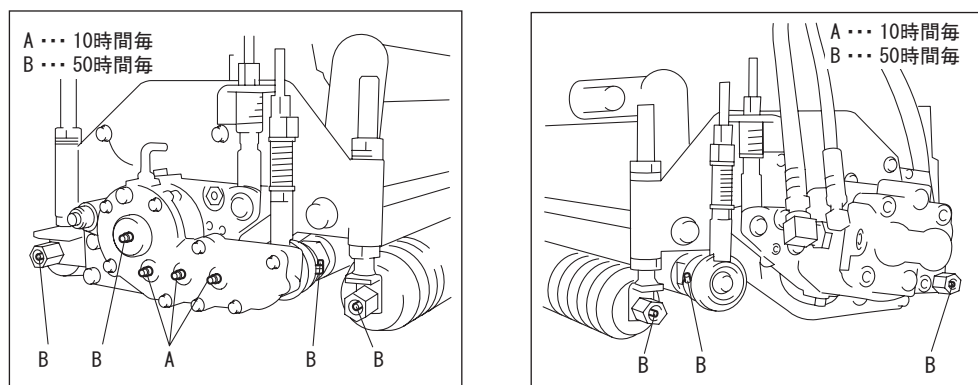


## 8. メンテナンス・モア

### 8-1 グリースアップ

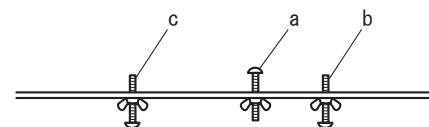
各部グリースニップルへ定期的にグリースアップをしてください。  
10 時間毎の部分はニードルベアリングを使用しているので特に注意してください。

グリース（エクセライト EP2 号）を各々約 1g（手動式小型グリースポンプで 1 ～ 2 回）グリースアップをしてください。



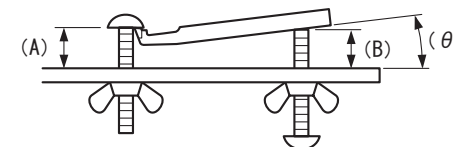
### 8-2 刈高調整

1) 付属の刈高ゲージをセットします。



- a. 刈高設定用小ネジ
- b. ベッドナイフ角度調整用小ネジ
- c. グルーマ調整用小ネジ

- ① a. のネジを刈高にセットします。
  - ② b. のネジで下の表を参考にベッドナイフの角度をセットします。
- 【例】：刈高 15mm でベッドナイフの角度を 5° にする場合 12mm にします。

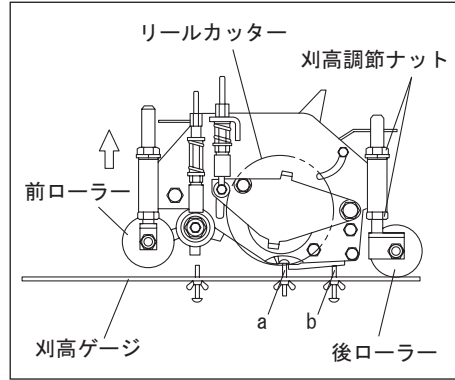


ベッドナイフ角度 (θ)	(B) の値
7°	刈高 (A) - 0.6 mm
6°	刈高 (A) - 1.8 mm
5°	刈高 (A) - 3.0 mm
4°	刈高 (A) - 4.2 mm
3°	刈高 (A) - 5.4 mm
2°	刈高 (A) - 6.6 mm
1°	刈高 (A) - 7.8 mm

※ベッドナイフの角度は 5° を基準にし、状況に合せ設定してください。

2) 後ローラーの高さを調整します。

① 刈高ゲージの a、b のネジを図のようにベッドナイフに当てて後ローラーの調整を行います。(ベッドナイフの角度を基準に後ローラーの位置を決めます)



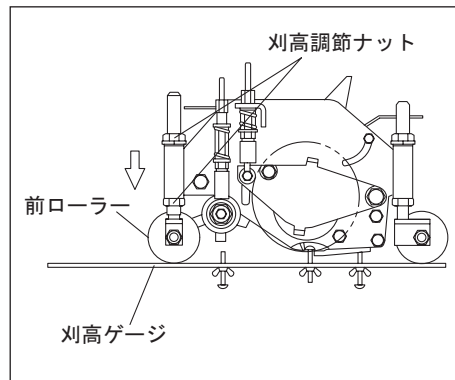
② 後ローラーの調整は刈高調節ナットを緩めて刈高ゲージに合わせて調整します。

③ このとき、前ローラーが刈高ゲージに当たると正確な調整ができないので、当たらない位置まで前ローラーを上げてください。

④ 調整後は確実に刈高調節ナットを締めてください。

3) 前ローラーの高さを調整します。

① 最後に前ローラーの刈高調節ナットを緩めて刈高ゲージに合わせて調整します。



② 調整後は確実に刈高調節ナットを締めてください。

8-3 刃の調整



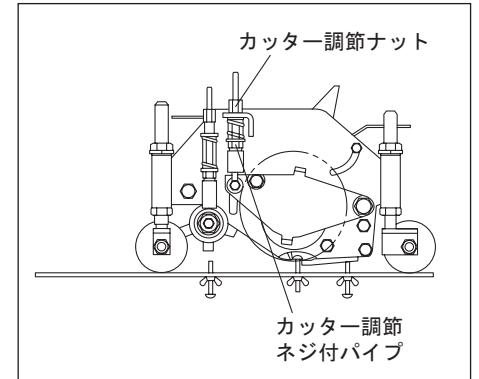
刃の調整をするときは、必ずエンジンを停止して行ってください。



1) 油圧モータのバイパス弁のレバーを「停止」側にして油圧モータをフリーにします。(3-20 参照)

2) リールカッターとベッドナイフのかみ合い調整は、カッター調節ナットにより刃先全幅を均一に接触させ、新聞紙(2枚)が切れるようにしてください。

カッター調節ナットを緩めると刃の接触は強くなり、締めると接触は弱くなります。



3) 調節しても切れない場合はラッピング研磨をしてください。

4) リールカッターが摩耗して径が小さくなってくると、スプリングの張りが弱くなってきます。

カッター調節ネジ付パイプを緩めてスプリングの張りを調整してください。



リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。取扱いには十分注意してください。

新聞紙を試し切りするときは、リールカッターを回す指先に注意してください。

駐車ブレーキを確実にかけ、作業してください。

2人作業はしないでください。



## 8-4 ラッピング研磨

- 1) リールカッターの全幅にわたり、新聞紙がよく切れる部分と切れない部分を調べます。
- 2) ラッピング研磨するモアユニットの油圧モータのバイパス弁のレバーを「回転」側にし、ラッピング研磨しないモアユニットの油圧モータのバイパス弁のレバーを「停止」側にします。
- 3) エンジンを始動し、エンジン回転速度を低速にします。
- 4) リール正転・逆転スイッチを「逆転」側にします。(3-16 参照)
- 5) リール回転スイッチを「回転」側にし、リールカッターをラッピング回転させます。(3-15 参照)
- 6) リール回転調整バルブでリールカッターの回転速度を調整してください。(3-21 参照)
- 7) 新聞紙がよく切れた箇所にブラシで研磨剤を塗ります。  
(切れ味の悪い箇所には絶対に塗らないでください。)  
研磨剤はラッピングパウダー（# 150～# 200）とオイルを1:3～4の割合で混合したものを使用してください。
- 8) しばらく回転させておき、接触音がしなくなったら回転を止め、エンジンを停止します。
- 9) リールカッターの刃先全幅にわたり、新聞紙がよく切れる部分と切れない部分を調べます。  
以上を繰り返すと、リールカッターとベッドナイフは均一にかみ合うようになります。
- 10) 最後に研磨剤をリールカッターの刃先全幅に塗って、仕上げのラッピング研磨をしてください。
- 11) エンジンを停止させ、スチーム等で研磨剤をきれいに洗い流してください。
- 12) リール回転調整バルブを元の位置に戻してください。

### ⚠ 危険



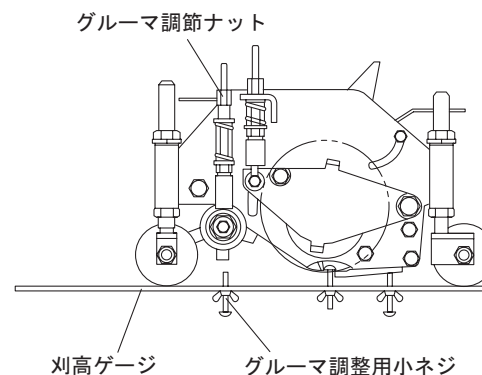
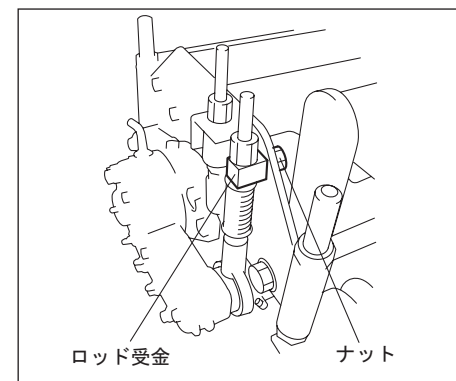
- ・ リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。取扱いには十分注意してください。
- ・ 新聞紙を試し切りするときは、リールカッターを回す指先に注意してください。
- ・ 駐車ブレーキを確実にかけ、作業してください。
- ・ 2人作業はしないでください。
- ・ 排気ガスがあたらないところで行ってください。
- ・ 回転部分に注意してください。

### ⚠ 注意

- ・ 研磨剤を洗浄するときは、電装品、スイッチ類に水がかからないように注意してください。水がかかると思わぬ故障の原因となります。

## 8-5 グルーマの調整（オプション）

- 1) 刈高ゲージのグルーマ調整用小ネジを設定の高さに合せます。  
(8-2 参照)
- 2) ロッド受金のナットを緩め、グルーマ全体を長穴の一番下まで下げます。
- 3) ロッド受金のナットを締付け、グルーマ調節ナットで高さの調整をしてください。
- 4) グルーマを使用しないときは、グルーマ全体を長穴の一番上まで上げてください。

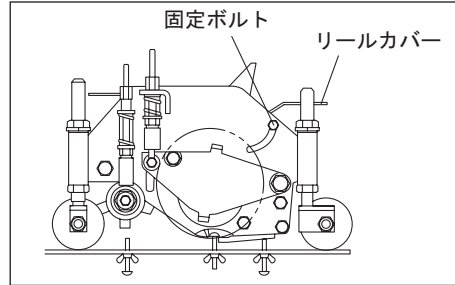


**注意**

- 調整は必ず刈高ゲージを使用し、左右が平行になるように調整してください。ベアリング破損の原因となります。
- グルーマの設定は地上高さで5mmまでにしてください。それ以下で使用するとグルーマ軸、ベアリング、ギヤ等が破損する恐れがあります。

**8-6 リールカバーの調整**

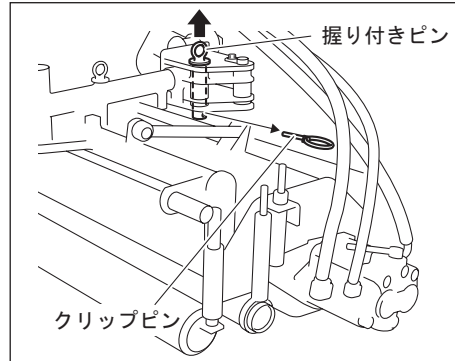
- リールカバーを固定している左右のボルトを緩め、リールカバーの角度を調整してください。
- オプションの集草箱をセットするときはリールカバーを一番閉じた状態にして作業してください。



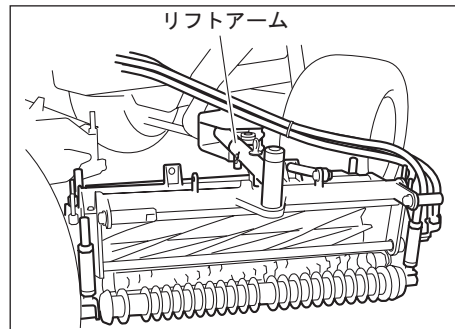
**8-7 #2、#3 モアユニットの旋回**

#2、#3 モアユニットを本体外側に旋回させることにより、メンテナンスを容易に行うことができます。

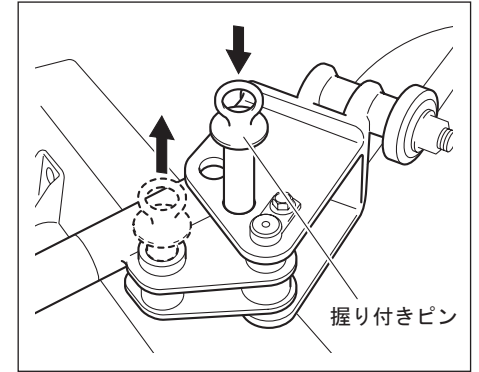
- 1) モアユニットを降ろし、クリップピンを外し、握り付きピンを抜きます。



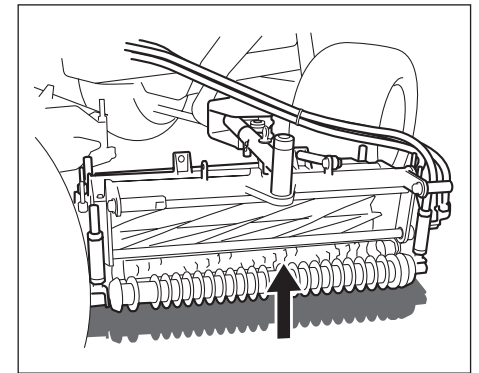
- 2) モアユニットを本体外側に旋回させます。



- 3) 旋回した後は、握り付きピンをメンテナンス固定用の穴に差込んでください。



- 4) モアユニットを上げます。



- 5) メンテナンス終了後は逆の手順で元の状態に戻してください。

**注意**



- モア部のベアリング、オイルシール類は1シーズンごとに交換してください。
- 油圧モータが取付けてある油圧モータハウジングにはグリース(パイロノックCG0号)が充填してありますので、200時間毎に点検、補給してください。

**危険**

- リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。取扱いには十分注意してください。



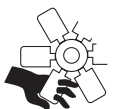
## 9. メンテナンスの注意

### ⚠ 注意

#### 9-1 メンテナンス上の注意



- ・実施するメンテナンスを熟知してから行ってください。
- ・メンテナンスは平坦で乾燥したきれいな場所で行ってください。
- ・機械の作動中は、給油やメンテナンスをしないでください。
- ・駆動・作動部分には、手足を近づけないでください。  
駆動・作動部分のメンテナンスは手足が巻き込まれないように十分に注意して行ってください。
- ・すべての駆動を断ち、各コントロールを操作して圧力を解除してください。
- ・全部品は、良い状態で正しく取付けてください。
- ・磨耗または損傷した部品は、直ちに修理または交換してください。
- ・機械の改造はしないでください。整備上の必要部品は、安全確保のため純正部品を使用してください。
- ・ゴミやグリース、オイルの付着は取除いてください。
- ・電気システムのメンテナンスをする前には、必ずバッテリーのマイナス (-) 配線を外してください。
- ・機体を上げたまま作業するときは、安全で確実なサポートをしてください。
- ・廃油、部品交換等で不要になった部品などの廃棄については、各地域の法律に従って処分してください。



### ⚠ 警告

#### 9-2 高圧オイルによる被害の防止



- ・高圧オイルが皮膚に吹付けられると重大な損傷がおきます。
- ・高圧ライン・ホース・継手を外す前に圧力を逃がしてください。
- ・油圧系のメンテナンスを行うときは、モアユニットを降してください。
- ・運転を始める前にすべての継手の締め金具を確認してください。
- ・漏れの点検には、小さな厚紙を使ってください。もし、高圧オイルが皮膚に吹き付けられたら、2～3時間以内に必ず医師の治療を受けてください。

### 9-3 メンテナンススケジュール

◆ メンテナンス等に必要な工具は、目的に合ったものを使用してください。

	メンテナンス作業	使用前	50H 毎	100H 毎	200H 毎	500H 毎	6ヶ月毎
エンジン	エンジンオイルの点検	○					
	エンジンオイルの交換		○ (初回)	○			
	オイルフィルタの交換		○ (初回)	○			
	ラジエータとオイルクーラの清掃	○					
	冷却水の点検	○					
	エアクリーナの点検・清掃	○					
	エアクリーナエレメントの交換				○		
	ファンベルトの点検	○					
	バッテリー液の点検						○
本体	フューエルフィルタの交換					○	
	タイヤの点検	○					
	燃料の点検	○					
	油圧ホースの点検	○					
	油圧作動油の点検	○					
	油圧作動油の交換			○ (初回)		○	
	オイルフィルタの交換			○ (初回)		○	
	ブレーキの点検	○					
	電気配線の点検	○					
	各部の油漏れ	○					
各部の緩み損傷の点検	○						
グリースアップ (6-4) (8-1 参照)			○				
油圧モータハウジング内のグリースの点検					○		
リールカッターの刃合せ	○						
ゴミ等の除去	○						

※ステアリング用油圧ホースは、2年毎に交換してください。

〈メンテナンススケジュールに関する規定値〉

エンジンオイル容量	MAX : 9.7L MIN : 7L	API サービス分類 CF 級以上
冷却水容量	全容量 12L	リザーブタンク 1L 含む
タイヤ空気圧 (標準タイヤ)	前輪 150kPa (1.5kgf/cm <sup>2</sup> )	
	後輪 140kPa (1.4kgf/cm <sup>2</sup> )	
燃料タンク容量	約 51L	JIS2 号軽油
油圧タンク容量	約 44L	シェルテラス S2M46 相当品

〈エンジン、油圧関係の主な消耗部品一覧〉

エンジン関係

部 品	コード番号
オイルフィルタエレメント	PF16414-3243-0
エアクリーナエレメント	PFR1401-4227-0
ファンベルト	PF17112-9701-0
燃料フィルタカートリッジ	PF15221-4317-0
バッテリー	K3600000180
スロットルワイヤ	K1110168020

油圧関係

部 品	コード番号
油圧フィルタカートリッジ	K3410000030
サクションフィルタ	K3413000040

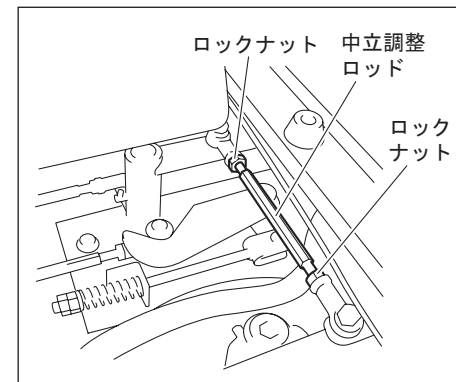
## 10. 各部の調整

### 10-1 ピストンポンプの中立位置の調整



**⚠ 注意** ・回転するタイヤに触れないよう注意してください。

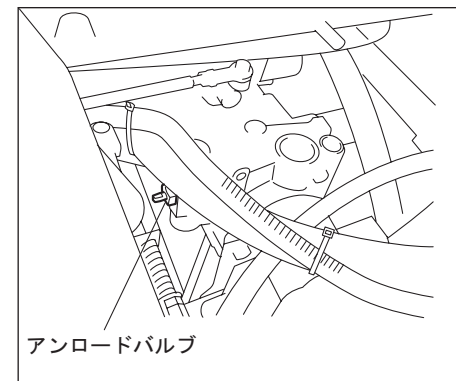
- 1) 本機をジャッキアップし、安定の良い台に乗せて、前・後輪を浮かせます。
- 2) シートを上げます。
- 3) エンジンを始動、高速回転にし、2WD・4WD 切換スイッチを「2WD」に入れます。
- 4) 前輪が前進方向に回転する場合は、ロックナットを緩め、中立調整ロッドを縮める方向に回します。後進方向に回転する場合は、中立調整ロッドを伸ばす方向に回します。前輪が止まる位置を見つけ、ロックナットを締付けてください。



### 10-2 自走できなくなった場合のけん引



- 1) エンジンがかかっているときは、エンジンを止めてください。
- 2) 駐車ブレーキをかけ、車輪止めをしてください。
- 3) 2WD・4WD 切換スイッチを「2WD」に入れます。
- 4) シートを上げます。
- 5) 油圧ポンプ横にあるアンロードバルブを 90° 回転させてください。



**⚠ 注意** ・けん引するときは十分注意して低速で行ってください。  
 ・エンジンを始動するときは、必ずアンロードバルブを戻してから始動してください。

## 11. 長期保管について



詳細は、エンジン・バッテリー取扱説明書を参照してください。

1. 泥や草屑、油汚れ等をきれいに落としてください。
2. エンジンオイル、クリーナ・エレメントを点検交換してください。
3. 各注油箇所に、グリース注入と塗布、注油をしてください。
4. 火花や裸火を使用する屋内で本機を保管する場合は、必ず燃料タンクを空にし、火元から十分離してください。
5. タイヤの空気圧を標準よりやや高めにし、湿気から守るために板の上に乗せてください。
6. ボルト・ナットの緩み、脱落を点検してください。もし緩み、脱落があれば増締めや補修をしてください。
7. その他各部の不具合箇所、塗装のはげ落ちた箇所は整備してください。
8. 閉めきった場所に本機を保管する場合は、エンジンが十分に冷えていることを確認してください。
9. バッテリーは本機から取外し、キーを抜きとり保管してください。本機に取付けたまま保管する場合は、アース側（マイナス側）を取外してください。
10. 機械を格納する際には、モアユニットを降下させてください。一番外側の4番、5番モアユニットを上げた状態で保管する場合は、必ずモアロックレバーを掛けておいてください。

## 12. 廃棄について

使用国の法律に従って処分してください。

(例：廃油、ゴム製品、不凍液、バッテリー、配線等)

**BARONESS**<sup>®</sup>  
Quality on Demand



株式会社 共栄社

〒442-8530  
愛知県豊川市美幸町1-26

TEL (0533) 84 - 1221  
FAX (0533) 84 - 1220